

2020年11月2日

みずほディーラーズアイ (2020年11月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 102.00 ~ 107.00

市場営業部 為替営業第二チーム 小林 元子

■ 先月の為替相場

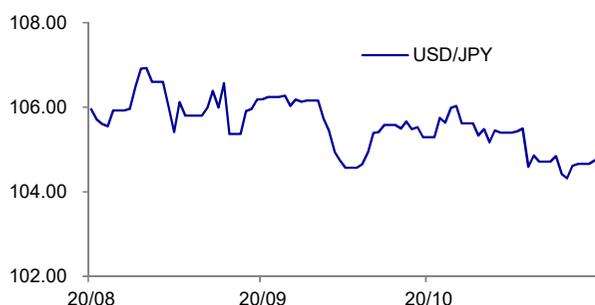
10月のドル/円相場は、月後半にかけて下落。
 月初1日に105円台半ばでオープン。東京証券取引所にてシステム障害が発生し株式全銘柄の売買が停止したものの為替相場への影響は限定的。2日にはトランプ大統領の新型コロナ感染報道から週安値の104.95円まで一時下落。その後は下落していた米株が下げ幅を縮小する流れに105.30円台まで小幅に値を戻す展開に。第二週目は、週初5日にトランプ米大統領の容態が良好であるとの報道にリスク回避巻き戻しの円売りが先行すると、105円台後半まで上昇。6日にトランプ大統領が景気対策交渉の停止を発表したとの報道が嫌気されて米株価の急落とともにリスクオフの円買いが強まったものの、翌7日には、円買いが一般し、10月の高値となる106.11円まで上昇。その後、米追加経済政策の早期成立期待が高まったことを受け、リスク選好のドル売りが優勢となった。
 翌週には、米製薬大手がコロナワクチンの研究を中断したとの報道が嫌気され、一時リスクオフのドル買い優勢となった。しかし、英・EU間のFTA交渉継続への期待感が高まると、欧州通貨全般に対しドル売りが拡大すると、ドル/円は下落。ムニューシン財務長官から、米選挙前の経済対策合意が困難との発言も相俟って、下落し、節目の105円が意識される中、新規材料に欠け、安値圏での推移が継続。週後半、実需によるドル買いやプレグジット交渉の停滞や欧州でのコロナ再感染拡大への懸念が強まったことにより、欧州通貨が売られる展開に。ドル/円は105円台半ば付近まで値を戻し、105円台半ばでのレンジ推移が継続。
 その後、20日にユーロが大きく上昇したことをきっかけにドル/円は再び下落を開始。21日には、本邦実需勢のドル売りに加え、欧州通貨や人元元に対するドル売りを背景に、ドル円は一気に104.35円まで下落。104円台前半では押し目買いの意欲もあり、104円台後半まで値を戻し、104.74円で越週。最終週は、軟調な米経済指標や欧州を中心とした新型コロナウイルス感染第2波が意識される中、ドル/円は104円台前半まで下落。29日には、ユーロ/円やポンド/円の下落に伴い、ドル/円も月安値となる104.03円まで連れ安となった。ECB 政策理事会後、ラガルドECB 総裁が12月に追加緩和を示唆したことでユーロ売りが加速すると、ドル/円は104円台後半まで値を戻し。月末日は売り買いが交錯しながら104円半ばでレンジ推移となった。

■ 今月の見通し

今月のドル/円相場は、11月3日に控える大統領選挙を無難に通過すれば、景気対策の早期合意期待によるリスクオン動きでドル/円は上昇相場を予想する。一方で、後述のリスクシナリオ、とりわけ大統領選が「泥沼化」した場合は、リスクオフにより全面的なドル売り相場となる懸念もあろう。今月のドル/円相場を考える上ではなんといっても米大統領選の行方が重要である。両候補者が掲げる経済政策は次の通り。
 トランプ候補:「アメリカ第一主義」で自国の利益を最優先する。「トランプ減税」とも呼ばれる大規模減税で経済活性化を図る。
 バイデン候補:「国際協調路線」で世界のリーダーとしての役割の復活を目指す。増税で社会保障を充実させ、インフラ投資を積極的に行う大きな政府を目指す。
 足元やや劣勢となっているトランプ候補が当選した場合、大規模な追加減税政策等により引き続きトランプ相場が継続され、ドル/円は上昇相場と見込む。やや優勢となっているバイデン候補が当選した場合は、増税が予定されているものの、大統領職と上下院の全てを民主党が全うすることとなり、経済政策がスムーズに発動できることが期待され、前者同様ドル/円相場は上昇トレンドを見込む。
 一方で、大統領選が「泥沼化」した場合、マーケットにとっては大きな不安要素となり、全面的なリスクオフトレンドになる懸念も想定しておきたい。選挙のスケジュールについては、大統領選挙の投票日は11月3日であるのは周知のことですが、ここでは有権者の一般投票で州ごとに「大統領選挙人」が選ばれることとなっているが、コロナ対策で郵便投票の採用拡大により勝者の確定は数日後になる可能性あり。その後、12月14日に選挙人による投票が予定されている。ここでは538人中過半数である270人を獲得した候補者が当選となる。来年1月6日に連邦議会で開票が行われ、当選者が正式決定される。最終的に2021年1月20日にワシントンで次期大統領就任式にて、大統領と副大統領による宣誓が行われる運びとなっている。トランプ候補は10月29日の討論会で、コロナ禍を背景に利用が急増するとみられる郵便投票が不正選挙を招くとの持論を主張し、場合によっては最高裁が大統領選の結果を判断する可能性もあるとの見方を示した。不正や集計ミス等があった場合は、両候補者がどちらも勝利を主張した場合、最終的には司法で争いとなる。マーケットにとっては大きな不安要素となり、リスクオフ地合いでドル売りとなる懸念にも留意したい。

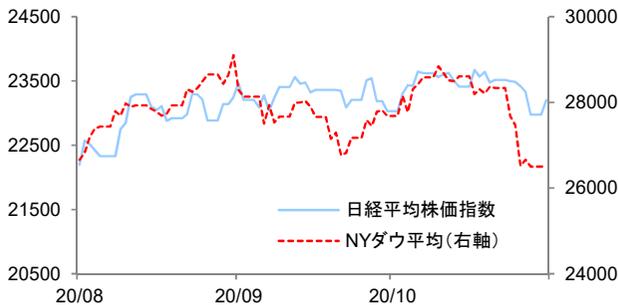
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	米ISM製造業景況指数	9月	56.5	55.4	56.0
10/2	米非農業部門雇用者数変化	9月	859K	661K	1489K
10/2	米失業率	9月	8.2%	7.9%	8.4%
10/5	米ISM非製造業景況指数	9月	56.2	57.8	56.9
10/15	米新規失業保険申請件数	10月	825K	898K	767K
10/15	米失業保険継続受給者数	10月	10550K	10018K	10594K
10/16	米小売売上高 (速報、前月比)	9月	0.8%	1.9%	0.6%
10/22	米中古住宅販売件数	9月	6.30M	6.54M	5.98M
10/27	米耐久財受注 (前月比)	9月	0.5%	1.9%	0.4%
10/29	米GDP (年率/前年比)	3Q	32.0%	33.1%	-31.4%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル/円 見通しまとめ

ブル	11名	108.00 ～ 103.00	ベア	10名	106.00 ～ 102.00
----	-----	-----------------------	----	-----	-----------------------

※ レンジは中心値

田中	ベア	106.00 ～ 102.00	米大統領選は時期を含め選挙結果の予想が困難なことから出たと勝負ではあるものの、既にバイデン候補勝利を織り込んだドル売りの巻き戻しに注意。但しコロナ感染再拡大懸念もありドル円のリスクは下値か。
竹内	ベア	106.00 ～ 103.00	米大統領選挙の結果がすぐには判明しないリスクが高く、リスクオフは継続。一方、バイデン候補勝利への過度な織り込みは剥落する方向で、相場の下値を支える要因となり、結果的に緩やかな円高方向を予想。
筒井	ブル	109.00 ～ 103.00	大統領選・上下院勢力図・コロナ再拡大が大きなテーマ。共通するのは財政出動拡大。米実質金利上昇もトレンド化しつつあり、日々の報道に日中の値幅が拡大するだろうが、徐々に切り上げていくことを想定。
加藤	ブル	109.00 ～ 104.00	バイデンが勝利することはある程度織り込み済み。バイデン勝利でも短期的にはグローバルな貿易回復期待でリスクオン。一方で、ありえないと思うがトランプであれば更にドル/円は強含む。
山岸	ブル	108.00 ～ 102.00	米大統領選は激戦州の結果次第であり、未だ不透明感が非常に強い状況。大差の票数で早期に決着すれば、イベント通過による安心感から4年前と同様にドル高円安に振れやすいか。僅差で早期に決着しない場合は、下値トライの展開を予想。
牛島	ベア	106.00 ～ 102.00	米大統領選は結果がすぐに判明せず、当面はリスクオフが継続すると予想。104ちょうどを下抜けすると103円台は滞空時間が短くなるだろう。ただし、結果判明後は4年前と同様にリスクオンでドル円急反発か。
田坂	ベア	106.00 ～ 102.00	大統領選結果の大勢が判明した時点では一時的にイベント消化に伴うポジション調整によりドル買いが強まる局面もあるが、コロナ感染拡大による景気下押し懸念・大統領選結果を巡る異議申し立てなどを背景に リスクオフ継続を予想。
尾身	ブル	109.00 ～ 101.00	緩やかにドルの買い戻しが継続すると予想。背景は、低金利政策の長期化、追加の財政政策への期待、堅調な米株相場など。11/3に米大統領選がある為、月初は相場が上下動する可能性が高いが、イベント通過後はドル買いを見込む。
上野	ベア	106.00 ～ 101.00	大統領選の行方は選挙開票後にも尾を引くのでは。為政者が決まらず、経済対策も出ないとすれば、ダウンサイドリスクが高まる展開になる可能性が高そう。本邦より深刻なコロナ感染状況も重石に。
山口	ベア	107.00 ～ 102.00	リスクオフ相場継続でドル円は上値重い推移継続を予想。大統領選挙の結果発表まで相応に時間がかかると予想さる。さらに世界中でのコロナ感染者拡大が続いており、今後ロックダウンなどの措置も取られる可能性もあろう。

甲斐	ベア	106.00 ～ 103.00	大統領選の大勢は見えてきても、結論が出るまでに時間がかかる状況が続き、じわり円高継続を予想。上下を繰り返しながらも少しずつ水準を切り下げていく展開を予想。
小野崎	ブル	108.00 ～ 101.00	イベント通過にドル買い優勢か。バイデン勝利が相応に織り込まれ、特段波乱なしとの見方で上昇を想定。一方、サプライズ結果や結果判明に時間を要す等リスクオフ要因が見られた場合、年初来安値の101円台まで下値は視野に入れたい。
玉井	ブル	106.00 ～ 103.00	米大統領選後は米追加経済対策への期待が高まりリスクオフムードが和らぎそう。ただ、大統領選の結果が判明せず空白となるリスクが残る。いずれにせよドル円は同方向に動きやすく、値幅は限定的か。
原田	ベア	106.00 ～ 102.00	3日に大統領選の投票日を迎え、上下にボラティリティの高い展開となる。一部で言われている大統領および議会も民主党となるような「ブルーウェーブ」による株売り・債券売りの動きには留意したい。
大庭	ブル	106.00 ～ 104.00	104円の心理的節目を維持したい思惑が錯綜。米大統領選も大勢が決まればドル円はボリンジャーバンド中央値(20日移動平均)105.20付近まで上昇するであろう。一時的な円高クラッシュ時に、寧ろドル円のロングを仕込みたい。
上遠野	ベア	106.00 ～ 101.00	大統領選後はいずれの候補者が新大統領になったとしても期待感からドル買いで反応する可能性があるも、欧米を中心とした新型コロナウイルス再拡大による経済下押し圧力により上値は抑えられ、月下旬にかけて下げ幅を拡大する展開を想定したい。
小林	ブル	107.00 ～ 102.00	無難に大統領選を通過すれば、景気対策の早期合意期待を好感して、ドル円は上昇相場を予想する。一方で、トランプ候補は郵便投票が不正選挙を招くとの持論を主張しており、「泥沼化」した場合はリスクオフとなる懸念にも留意したい。
逸見	ブル	107.00 ～ 103.00	10月下旬にかけてバイデン勝利を織り込む格好でドル安が進行。特段の波乱なければ、ビックイベントを消化した安心感から、ドルが買い戻される展開を想定。
大谷	ブル	107.00 ～ 104.00	大統領選を通過した安心感からドルが買われやすい地合いになると予想。またどちらの大統領になったとしても大規模な財政政策が出るという期待は根強く、ドル円のサポートとなる。
鈴木	ベア	106.50 ～ 102.00	大統領選の正式結果が判明するまでは、リスクオフ地合いは継続と予想。仮に結果が早めに判明しても、上昇は一時的なものとなり、コロナウイルスの再拡大等を背景に上値が抑えられる展開を想定。
大熊	ブル	108.00 ～ 103.00	大統領選の行方の不透明感からボラティリティが高まる事が予想されるものの、欧州経済の下振れリスクが増大している状況下では、リスクオフの円買いとともにドル買いも強まりやすく、ドル/円は底堅い展開を予想。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.1450 ~ 1.1800
EUR/JPY 121.00 ~ 125.00

市場営業部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

■ 先月の為替相場

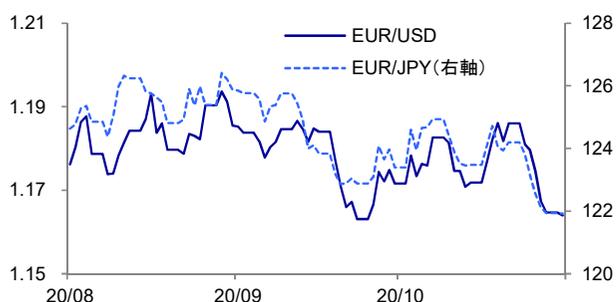
先月のユーロ/ドルは月後半にかけて上値を試す場面も見られたが、月末にかけて下落する展開。
10月1日は1.17台前半でオープン。前月末の流れを引き継ぎ1.17台後半まで上昇する場面も見られたが、2日にトランプ大統領の新型コロナウイルス感染が判明したことを背景としたドル買いに一時1.16台後半まで下落。その後は小幅に買い戻され1.17台前半で越週。第2週目は欧州株や米株先物の上げ幅が拡大する動きに、週初一時1.18台前半まで上昇するも、その後は1.17台前半まで下落。6日のトランプ大統領による追加経済対策交渉停止発言、8日のブレグジットの交渉難航報道やECBのユーロ高を懸念する発言が嫌気される形となった。週末にかけては、米追加経済対策の早期成立への期待感を背景としたドル売りにサポートされ上昇に転じ、1.18台を回復。1.18台の高値圏を維持して越週した。第3週目は週初12日につけた1.18台前半を高値としてその後は続落。13日に発表されたドイツ10月ZEW景気期待指数の悪化、14日にイタリアでの新型コロナウイルス新規感染者が過去最多を記録したこと、15日に交渉期限が設定されていたブレグジットが合意に至らなかったことによる交渉長期化懸念等が嫌気され、一時1.16台後半まで下落した。週末にかけ欧州株の上げ幅が拡大したことにより1.17台は回復したものの、米金利上昇に伴い、ユーロロングのポジションに調整が入り、上値は抑えられ1.17台前半で越週。第4週目は一転上昇基調となり、10月の高値を更新する展開。週初1.17台前半でオープン後は、19日のブレグジット交渉継続による長期化懸念の解消により1.17台後半まで上昇。20日は米追加経済対策合意への期待感を背景としたリスク選好ムードにより、1.18台後半まで上昇し10月の高値となる1.1880つけた。22日にかけてはイングランド銀行のマイナス金利導入の思惑が後退したことによるユーロ/ポンドの下落による連れ安や米金利の上昇により下落し、一時1.17台後半まで下落したものの、23日に発表されたユーロ圏の10月製造業PMIが市場予想を上回ったことにより反発し、1.18台後半まで再度上昇。1.18台後半を維持して越週した。第5週目は週初につけた1.1859を高値として続落。26日に発表されたドイツ10月IFO景況感指数が前回比低下したことや、27日以降フランスやドイツでロックダウン発動の懸念が高まったことに週初から続く米株や欧州株の軟調推移も相まって下落が継続。29日のラガルドECB総裁の会見で12月の追加緩和が示唆されるとユーロ売りが加速し、一時10月底値となる1.1650まで下落。その後は小幅に買い戻されたものの、30日は1.16台後半での値動きに終った。

■ 今月の見通し

今月のユーロ相場は、上値が重い状況が継続するのではないかと。一番の注目はやはり米大統領選の結果であろう。当初はトランプ共和党勝利でドル高、バイデン民主党勝利でドル安という見解が優勢であったものの、選挙当日が近づくにつれ、取まらない新型コロナウイルス禍で財政拡大の必要性を訴える政策が評価され、バイデン氏が勝利した場合もドル高が進むとの見方も強くなってきている。またテレビ討論会等を経た10月末の世論調査では、バイデン氏有利との報道が目立つが、投票方法に郵便投票が多く集計に時間を要することや票数が僅差だった場合には法定闘争に持ち込まれる可能性があることから、最終結果の判明が大幅に遅れることも想定される。新型コロナウイルス禍という前代未聞の状況である中、稀に見る接戦ということもあり、選挙直後の方向感はずいぶん出づらく、ユーロのロングポジションに調整が入り、安全資産であるドルが買われる傾向が強まるのではないかと。また欧州全体での新型コロナウイルスの再拡大も懸念材料となる。先月はイタリアで一日の感染者数が最多を記録し、フランスをはじめとする各国では夜間の外出禁止令やロックダウン措置等の感染拡大防止対策が再実施され始めている。先月末にはこれまで5か月連続で数値が改善してきたドイツIFO景況感指数が低下したこと、景気の先行きの不透明感が増していることは明らかであり、上値を抑える要因になるといえる。
29日のECB政策理事会では政策金利に変更はなかったものの、12月の追加緩和が強調された。PEPPの延長や増額、TLTRO等による資金供給が主な施策になる模様。ラガルドECB総裁の会見後はユーロ売りが加速するという結果となったが、施策の効果次第では、復興基金合意後のようにユーロ買いが進む可能性も考えられ、今後の動向に注視致したい。

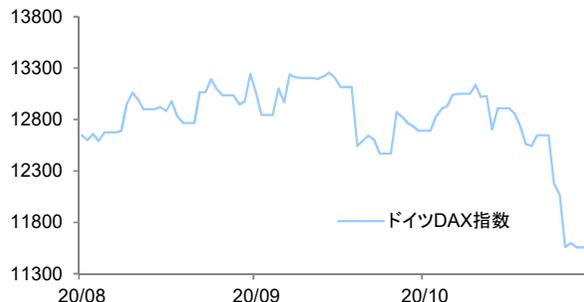
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/13	独zew景気期待指数	10月	72.0	56.1	77.4
10/23	欧州マークイット製造業PMI	10月	53.0	54.4	53.7
10/23	欧州マークイットサービス業PMI	10月	47.0	46.2	48.0
10/23	欧州マークイットコンポジットPMI	10月	49.2	49.4	50.4
10/26	独IFO指数(企業景況感/期待/現況)	10月	92.7/95.0/90.3	93.0/96.5/89.8	93.4/97.7/89.2

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ/ドル 見通しまとめ

ブル	2名	1.1900 ～ 1.1500	ベア	19名	1.1800 ～ 1.1400
----	----	-----------------------	----	-----	-----------------------

※ レンジは中心値

田中	ベア	1.1800 ～ 1.1400	欧州でのコロナ感染再拡大によるロックダウンが景気回復の足を引っ張る。ECBの追加緩和はほぼ確実であり、米大統領選の結果を受けたドルの動きに注意も、ユーロドルは軟調な展開を想定。
竹内	ベア	1.1900 ～ 1.1400	ECBによる追加政策期待を背景に、過度なEUR高期待は剥落する方向。また欧州を中心にコロナ再拡大による経済低迷が懸念されており、EURの上値は重い展開を予想。
筒井	ベア	1.1800 ～ 1.1100	コロナ再拡大対策・財政出動が米国以上に喫緊の課題。ECBが12月に追加緩和施策を打ち出す可能性は高い。11月については高官発言等を通じて通貨安誘導を行うと思われる、ユーロ安が進む展開を予想。
加藤	ベア	1.1800 ～ 1.1400	欧州域内では依然新型コロナの悪影響を払拭するまでは至らず、テクニカルにも頭打ちの可能性が高くなってきており、投機筋も戻り売りスタンスを継続すると思われる。
山岸	ベア	1.1900 ～ 1.1400	欧州での感染再拡大を受けた外出制限などの規制強化で、経済が冷え込む懸念から、ユーロは買いつらい状況。景気下押しに加えて、ユーロ高の経済、物価への影響懸念もあり、12月ECBで追加緩和観測が出ていることもユーロ売り材料。
牛島	ベア	1.2000 ～ 1.1500	米大統領選の結果判明まではリスクオンになりきれず、溜まったEURロングが粛々と解消される地合いが続くと予想。欧州域内のコロナ再拡大も懸念材料であり、EURは軟調推移が続くとみる。
田坂	ベア	1.1800 ～ 1.1400	欧州各国におけるコロナ感染者数拡大が深刻化しており、欧州圏経済回復が大幅に遅れることが予想される状況下、積極的なEUR買いは考え難く、上値重い展開を予想。
尾身	ベア	1.2000 ～ 1.1400	EUR高が抑制された状態が継続すると予想。低金利政策の長期化を受けた米株高や米国の追加財政対策への期待を背景に、ドル買い戻しが継続し、EURの上値は抑えられるのではないだろうか。
上野	ブル	1.2000 ～ 1.1500	マイナス金利に加え、弱い経済状況やコロナウイルス感染再拡大に鑑みれば、ユーロを積極的に保有する理由は見当たらないのが正直なところ。しかし、ドルの地盤沈下に伴い、相対的に上昇する展開も想定される。
山口	ベア	1.1900 ～ 1.1400	欧州でのコロナ再拡大を受けた各地でのロックダウンが行われており、経済の落ち込み懸念が高まっている。ECBも12月に追加緩和を示唆しており、ユーロは積みあがったロングポジションを解消する展開を予想。

甲斐	ブル	1.1800 ～ 1.1500	コロナ感染拡大により、前半はユーロ売りが継続すると予想。ただし、11月中旬～下旬にかけては感染拡大の終息がみられ、徐々に買い戻し機運が高まると予想。感染縮小期には、再び1.18台まで回復すると予想。
小野崎	ベア	1.1800 ～ 1.1300	欧州域内のコロナ再拡大に経済回復に希望は持ち難い。ECBによる12月の追加緩和施策も示唆された中で、EUR買いは考え難くじりじりと下落していく展開を想定。
玉井	ベア	1.1800 ～ 1.1400	新型コロナウイルス感染拡大と、それを受けた行動制限による影響が懸念されユーロは上値の重い動きとなる。12月にECBが追加緩和を予定していることも重しとなりそう。ただ、米大統領選後ドル安が進み下値は限定的となりそう。
原田	ベア	1.1800 ～ 1.1200	下落を予想。10月のECBは政策変更なし。ただし、ラガルド総裁が追加緩和を示唆したことで、過度なEUR買いは控えられるだろう。今後のECBメンバーの発言に注目したい。
大庭	ベア	1.1700 ～ 1.1550	欧州各国でコロナ感染再拡大を受けて、行動規制の対策が広がっており、ユーロは売り優勢。ECBも12月にPEPPを拡大すること示唆しており、独及び周辺国の金利に低下圧力。9月25日以来の1.16目前水準迄下落を予想する。
上遠野	ベア	1.1800 ～ 1.1550	新型コロナ再拡大を受けた都市封鎖、欧州全体での経済停滞を警戒したユーロ売りの地合いを継続。12月ECB政策理事会に向けた追加金融緩和の憶測もユーロ上値を抑えよう。
小林	ベア	1.1800 ～ 1.1500	欧州全域のコロナ感染再拡大によりロックダウンが再発動されており、積極的なユーロ買いになるとは考えづらい。加えてラガルドECB総裁が示した追加緩和観測も軟調推移の一因に。
逸見	ベア	1.1800 ～ 1.1400	欧州はコロナ感染再拡大により、再びロックダウンに入っている地域があることや、プレグジットの先行き不透明感を理由にユーロは軟調地合いを予想。ECBによる追加緩和期待の高まりもユーロの上値を抑える要因。
大谷	ベア	1.1800 ～ 1.1500	欧州におけるコロナ再拡大を受けて、各国では行動制限が再度強化されており、城内景気への先行き不安は高まっている。また、12月ECB政策理事会に向けてラガルド総裁が追加緩和を示唆したこともEURの上値の重さに拍車をかけよう。
鈴木	ベア	1.1800 ～ 1.1450	欧州全体でコロナ感染防止対策が再実施され始めており、経済の先行きは不透明。収束する気配はなく、当面は上値が重い状況が継続すると思われる。
大熊	ベア	1.1800 ～ 1.1400	新型コロナウイルスの再拡大、独仏の一部のロックダウンにより、欧州経済の先行きが懸念される。ECBは12月の追加緩和を示唆しており、ユーロ高への懸念もあることから、下値を切り下げる展開を予想する。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.2600 ~ 1.3200
GBP/JPY 134.00 ~ 139.00

欧州資金部 マクヒル・ジョセフ

■ 先月の為替相場

先月のポンドは、EUとの交渉関連のつぶやきに振られながら、上値を切り上げた。

9月29日に報じられた英中銀行ラムズデン副総裁の「マイナス金利導入は差し迫っていない」という発言を受けたポンド高から、10月のポンドはかなり堅調気味の滑り出しから始まり、さらに、5日に発表された新型コロナに罹患したトランプ米大統領の退院や、その翌日に同人物が追加経済対策交渉打ち切りを指示したという報道を受けて、全般的にドル売りが優勢となり、ポンド高は一段と加速し、対ドルでは1.30、対円では137円と、それぞれ節目の水準まで切り上げた。

その後、材料難で数日間動意乏しく推移した後、ポンドは、ジェットコースター如く、英とEUの交渉の行方に一喜一憂する展開の幕が開いた。9日にはまず、英ジョンソン首相が「EUとの交渉大きな進展ができた」と述べたことを受けてポンドが急騰し、対ドルと対円でそれぞれ1.3050と137.84と、約一か月ぶりに高値を更新した。続いては13日に、EU側のバルニエ首席交渉官とジョンソン氏が「最終的な詰め作業に入れるほど十分な進展はなかった」（バルニエ）と「合意なき離脱の用意ができていない」（ジョンソン氏）などと述べたことから、今度は大きく下落し、対ドルでは1.31台付近から1.28台、対円では137円台から135円までと、前週の上昇幅を帳消しにした。

14日には、EU側が首席交渉官のバルニエ氏に交渉継続を要請、英側が通商交渉の打ち切りはしない可能性を示唆したことから、交渉の成果に対する期待感が再燃し、ポンドは反発し、対ドルでは正午にはもう1.31台まで戻し、13日からわずか二日間半で対ドルで1.30台半ば → 1.28台半ば → 1.30半ばと、荒さでは群を抜いた値動きを示したのだ。

その後、ジョンソン首相が「交渉を打ち切る期限」としていた15日のEU理事会（サミット）まで目立った進展は確認されず、EU理事会は16日も続いたが、ジョンソン首相が合意なき離脱に向けた準備を本格化させることを示唆したことで10月の下旬に掛けてポンドは全面安で推移した。

しかし、EUとの通商交渉に関して英交渉責任者フロスト代表が22日からの交渉再開を発表した故、10月21日にはすでに状況はまた一転しており、ポンドは1.3177まで爆騰し、9月7日以来の高値を更新した。10月の最終週は、同交渉には目立った進展はなく、1.30台を挟んで推移し、同レベルで取引を終えた。

■ 今月の見通し

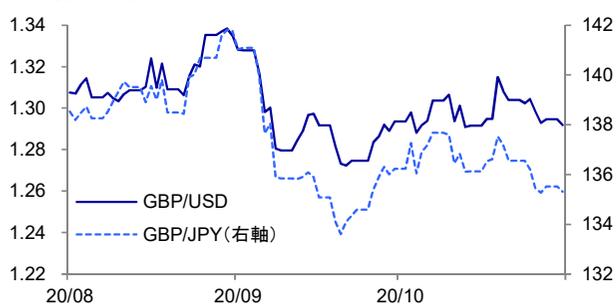
今月のポンドは、上値の重い膠着から、値幅が出るなら下振れを警戒する。そして、(10月29日時点の)市場では今後ポンドの下振れの要因となりうるものはおおむね二つ挙げられている。

一つ目は、英国内の新型コロナウイルス感染の再拡大。先月末にドイツとフランスが同日に1か月間のロックダウン(行動制限措置)を発表しユーロが対ドルで1.18台の半ばから一晩して1.17台まで売られたように、イギリスの感染状況も、11月の半ばくらいまで和らぎ始めている場合は、ロックダウン再導入の予想が強まると同時に、経済活動鈍化を懸念したポンド売りも、状況の厳しさによってはリスク回避的なドル買いも観測されるだろう。

二つ目は、マイナス金利の導入。初めて導入される可能性が明示されたのが9月17日で、その結果、来年度2月の会合での利下げが25%の確率まで織り込まれポンドは3日間かけて大きく下落した。きっかけは、英中銀総裁ペイリー氏の「マイナス金利導入後の実務について英健全性規制機構(PRA)との調整を指示した」という発言。それ以来、ラムズデン副総裁、ホールデン委員とハルデーン理事3名がそれぞれ違う場で、「マイナス金利導入は差し迫っていない」「選択肢の一つにすぎず、導入する構えにあると言っているわけではない」などと、同銀のそれまでの姿勢と異なる態度を示し市場の警戒心を和らげようとしたわけなのだが、来年度の利下げはまだ10%(10月29日時点)の確率で織り込まれているように、市場はあくまで彼らの発言を半信半疑で受け止めている。ゆえ、11月も、同中銀の委員らによる発言も、18日発表予定の10月CPIも警戒しておきたい。

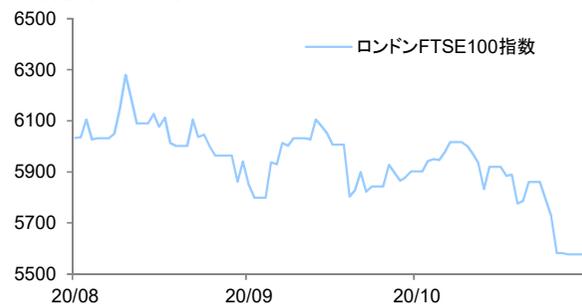
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	英国製造業PMI(季調済)	9月	54.3	54.1	55.2
10/5	英国サービス業PMI	9月	55.1	56.1	58.8
10/6	マークイット英国建設業PMI	9月	54.0	56.8	54.6
10/21	CPI(前月比)	9月	0.50%	0.40%	-0.40%
10/21	小売物価指数(前月比)	9月	0.30%	0.30%	-0.30%

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.6900 ~ 0.7250
AUD/JPY 72.50 ~ 75.50

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

■ 先月の為替相場

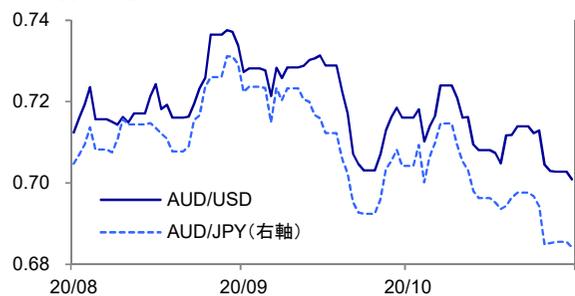
第一週目、1日は中国が国慶節、中秋節で大型連休に入中、米追加対策協議に関しては引き続き合意期待と先行き不安の狭間でセンチメントが右往左往。”トランプ米大統領が新型コロナ感染で入院”との報道で先行き不透明感から怒涛のドル売りとなった。リスク回避ムードの裏で豪ドルも0.71台前半へ下落。ドル売りが継続する中、豪ドルは0.7170台まで戻した。第二週目、0.71後半でスタートし、トランプ大統領の退院報道を受けリスクセンチメントが徐々に改善。6日はRBA理事会にて政策金利の据え置きも、その後声明文で、追加の金融緩和に関する議論が継続していることが示され、次回理事会での利下げ観測が高まり下落。更に米追加景気支援策の議論を選挙後に延期するようトランプ大統領が指示との報道で0.71近辺まで下落する。しかし週後半にトランプ大統領は合意を望んでいるとの報道で豪ドルは0.72半ば近辺まで反転上昇。第三週目はRBA利下げ観測の高まりを背景に週を通して0.72台から0.70台まで下落。中国当局が豪州産石炭の輸出停止を口頭で通達した事や、米追加経済対策の協議が難航している事、また欧米で新型コロナ感染再拡大している事が意識される中、リスク回避ムードが強まり米ドル全面高の展開に一時0.7050台まで下落。豪ドルの反応は限定的であったものの豪9月雇用統計では失業率が6.9%と市場予想程悪化しなかった。第四週目は0.70台前半へ下落後0.71台へ戻した。中国7~9月期GDPは市場予想を下回り、豪ドルも0.7080台まで下落。20日ケントRBA総裁補佐が「今後BBSWがゼロを下回る可能性は否定できない」と発言し豪国債利回りが低下、豪ドルは0.70台前半まで下落した。その後米追加対策合意の期待感から米株が反発すると豪ドルも0.7070台まで回復した。豪9月小売売上高は前期比1.5%減と2か月連続での減少となるも、米追加経済対策の期待感から0.7130台まで上昇。豪ドルは0.71台前半を中心に振幅した。第五週目は月末に向け0.71台前半から0.70近辺まで下落。RBAデベール副総裁から「豪経済は3Qでプラス成長となった模様。成長を再開させた」とポジティブ発言が出たものの、欧米での新型コロナ新規感染拡大による都市封鎖実施が嫌気された。週後半は米追加経済政策合意困難、来月月初に控えるRBA理事会、米大統領選が意識されリスク回避ムード一色となり0.70台前半まで下落。AUD/JPYは74.65近辺から73.40近辺まで下落。米3Q GDP(前期比)、米3Q個人消費は共に予想を上回り、発表後は米金利が上昇。ドルの買い戻しで豪ドルは0.70丁度近辺まで下落した。

■ 今月の見通し

今月は0.70台を割り込み、0.69台から0.72台での推移を予想する。下値は0.69台まで下がり、上値は0.72台半ばで頭を抑えられるとみる。11月3日に豪RBA理事会並びに米大統領選を控えている。豪RBAは過去最低水準への利下げ、豪3年債利回り目標の利下げ、更にイーールドカーブ・コントロール・プログラム下での債券購入、QEプログラムのアナウンスが広く予想されている。0.10%への利下げは既に織り込み済みではあるが、実際の発表後の値動きに注意したい。また、直近のRBAデベール副総裁の「豪経済は3Qでプラス成長となった模様。成長を再開させた」ポジティブな発言も出たため、豪中銀声明文では当局による豪経済の足元の状況認識と今後の経済展望に注目が集まる。米大統領選に関しては今回郵便投票が多く、当日中に集計が終わらないと見込まれており、3日以降も豪ドルには変動リスクが残るとみる。また大統領選後は再度焦点が追加経済政策合意へと移り、合意まではヘッドラインに豪ドルも一喜一憂となるだろう。

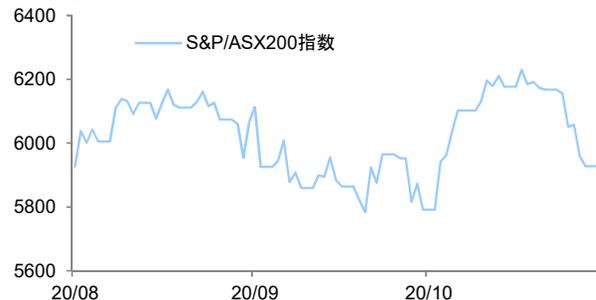
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/2	小売売上高(前月比)	8月	-4.2%	-4.0%	3.2%
10/6	貿易収支	8月	A\$5050m	A\$2643m	A\$4652m
10/6	RBAキャシュレート		0.25%	0.25%	0.25%
10/15	雇用者数変化	9月	-40.0k	-29.5k	129.1k
10/15	失業率	9月	7.0%	6.9%	6.8%
10/28	CPI(前年比)	3Q	0.6%	0.7%	-0.3%
10/28	CPI(前期比)	3Q	1.5%	1.6%	-1.9%

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3000 ~ 1.3600
CAD/JPY 76.00 ~ 81.00

米州資金部カナダ室 芦崎 瑞徳

■ 先月の為替相場

10月は1.3289でオープン。各地で新型コロナウイルス感染第2波が猛威を振るう中、市場はリスク回避の動きへ。注目の米大統領選では、バイデン優勢との報道が伝わる中、トランプ大統領の巻き返しも否定できず、不透明感が意識された。米追加経済対策に関しても様子見ムードが長く続き、市場心理は悪化。月後半は米追加経済対策への期待の高まりから、ドル安へと推移したが、月末にかけて欧州を中心とする新型コロナウイルス感染者増加の報道と米追加経済対策先送りが嫌気され、USDドル高へと転じた。2日発表の米雇用統計では失業率が7.9%に低下し、良好な結果となったが、トランプ大統領が新型コロナウイルスに感染したとの報道が伝わると、大統領選の先行きに不透明感が増し、リスクオフ地合いが高まった。USD/CADは1.3332まで急伸。一過性の買いは、トランプ大統領が回復に向かっているとの報道もあり、徐々に値を戻す。6日発表のカナダ8月貿易収支は赤字額が前回よりやや改善したもの、予想20.5億に対し24.5億ドルの赤字。米国の8月貿易収支は赤字が923億となり、前月634億から赤字幅が拡大。市場の反応は限定的。その後トランプ米大統領が経済対策協議を11月の大統領選挙後まで行わないとの報道があり、株価は下落。USD/CADは1.3341まで上昇したが、その後ツイッターで、航空業界、中小企業への支援策を可決するように指示をしたことが伝わると、今度は売りが先行。1.32台前半まで値を下げて行った。9日カナダ9月雇用統計は失業率が前月と予想を下回り、雇用者数は37.82万人と予想15万人を大きく上回った。良好な結果を受け、カナダドル買いが進む。更にメキシコ湾岸にハリケーンが接近し、原油生産停止が懸念され、原油先物が上昇した事もカナダドル買いの材料となった。また、トランプ大統領が民主党を上回る規模の経済対策を用意しているとの発言が好感され、リスク選好のUSDドル売りも相まって、カナダドルが1.311をつける場面も見られた。その後は狭いレンジでの推移が続き、15日米追加経済対策への期待が後退した事と、米経済指標の軟調な結果を受け、リスク回避のUSDドル買いとなりUSD/CADは1.3259へと反発。その後、20日に米追加経済対策が合意に近づいたとの報道にUSD/CADは1.3081まで反落。月末、欧州を中心に新型コロナウイルス感染者が増加。米追加経済対策先送りへの失望感と需要減への懸念から原油価格が6月以来の34.92まで下落。リスク回避が強まる中でのUSDドル買いへと転じ、USD/CADは月高値の1.3390まで上昇した。

■ 今月の見通し

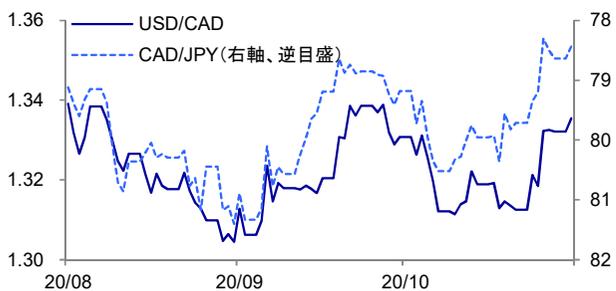
カナダでも新型コロナウイルス第2波の拡大により感染者は20万人を超えた。カナダ、メキシコ、アメリカの渡航制限措置は延期が決まり、再び増加傾向のある地域では都市封鎖政策が実施され、経済活動の更なる鈍化が懸念されている。カナダ中央銀行は3月に政策金利を0.25%まで下げ、市場の流動性を確保するため、あらゆるプログラムを実施してきた。経済緩和政策による政府の負債は膨らみ、国際金融機関の発表でカナダ政府の債務は2019年の89%から今年は国内総生産の115%に上昇すると予測された。元カナダ中央銀行総裁のボズ氏はインタビューで、中央銀行による金融緩和政策の限界を示唆。政府の資金は生産的な目的で使われ、経済発展に貢献されるべきだとし、多大な負債への懸念も示した。フリーランド財務相は経済フォーラムで政府の支援にも限界があるとしながらも、政府が年内に大きな経済刺激策を用意しているとし、期待が高まっている。28日のカナダ中銀金融政策決定会合では政策金利を0.25%に据え置くことを決定。コロナ第2波による、経済活動の顕著な鈍化を警告。2023年まで低金利が続くとし、国債買入れ規模を従来の週50億カナダドルから40億カナダドルに縮小、資産購入プログラムを再調整し長期債を購入する事で家計や企業の借入金利に影響を与え支援する意向を示した。また、カナダ中銀マックレム総裁はインタビューで、第4四半期の米経済成長率が予想より悪化するとの見方をしており、カナダの輸出への影響を懸念していることから、カナダドル安が望まれている。3日米大統領選挙、米連邦議会選挙が行われる。各種世論調査で民主党優勢と言われているとおり、バイデンが当選となれば新政策による経済回復への期待にドル安が予想される。需要回復への期待や中国の経済回復から原油価格の上昇も推測されるが、新型コロナウイルス感染拡大状況により上値は重いと思われる。30日には「OPECプラス」の合同閣僚監視委員会が会合を開催。原油価格の急落を避けるため、減産合意の順守状況を巡る協議が行われているが、来年までの減産合意を延長するかについて議論される可能性もあるので注意したい。11月は米大統領選、米追加経済対策、米中対立、原油市場、新型コロナウイルス感染拡大とワクチン開発に引き続き注目したい。コロナ感染拡大第2波により各地で再び都市封鎖が実施されている中、USD/CADの下値は限定的と思われる。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のギフト事情』
相手の好みも考えたりすると、ギフト選びは難しいものです。こちらではパーティーなどでワインやクラフトビールなど酒類を持参する人が多いようです。記念日、誕生日、出産祝いなどに向けては、それぞれの「場」に相応しいギフトバスケットがあり便利です。ラッピングされたバスケットの詰め合わせは、見た目も華やか。ビジネスでもクリスマスシーズンになる色々なお菓子の入ったギフトバスケットを贈り合っています。ちょっとしたお礼としては、Tim Hortons(コーヒーショップ)のカードやShoppers Drug Mart(薬局兼日用品を扱った店)のカードが、値段も手ごろで先方に気を使わせることなく、喜ばれます。ギフトカードは渡す側からすると、何となく味気ないものですが、贈られる側に見たら実用的なものが一番なようです。あと2か月でクリスマスがやってきますが、こちらではクリスマスシーズンに贈り物を買うときは、ギフトレシートを貰うのが一般的です。ギフトレシートはプレゼントと一緒に贈られる相手へ渡します。贈られた相手が、そのギフトを気に入らなかった場合、ギフトレシートをお店に提示すれば返品、交換が可能になります。レシートには店名、住所、品名が記載されており、もちろん値段は表示されていません。(返品をする場合は結局値段が分かっちゃいますが。)いずれにせよ贈られる方には勝手のいいサービスです。日本ではお店でギフト用と言えば、綺麗に包装してくれると思うのですが、カナダではお店で包装はしてもらえません。きれいに包装するのは案外難しく、結構面倒な作業です。クリスマスには有料でラッピングしてくれる場所が大きなショッピングモールに設置されているので、利用する人もいます。コロナ感染が依然広がる中で、早々とクリスマスの準備に取り掛かる向きも窺えます。鮮やかな紅葉を眺めながらクリスマスギフトを何にしようかと私も考え始めています。

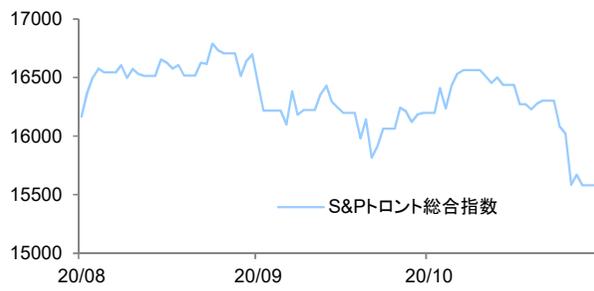
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	(資料) 予想	ブルームバーグ 結果	ブルームバーグ 前回
10/1	カナダ製造業購買担当者景気指数 (PMI)	9月		56.0	55.1
10/6	貿易収支	8月	-2.05b	-2.45b	-2.53b
10/8	住宅着工件数	9月	240.0k	209.0k	261.5k
10/9	雇用者数変化	9月	150.0k	378.2k	245.8k
10/9	失業率	9月	9.80%	9.0%	10.20%
10/16	鉱工業売上高	8月	-1.4%	-2.0%	7.20%
10/21	小売売上高(前月比)	8月	1.1%	0.4%	1.0%
10/21	消費者物価指数(YOY)	9月	0.5%	0.5%	0.1%
10/28	カナダ中央銀行政策金利		0.25%	0.25%	0.25%
10/30	GDP(前月比)	6月	0.9%	1.2%	3.1%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW	1100	1150
KRW/JPY	8.929	~ 9.434
JPY/KRW	10.600	11.200

(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

東アジア資金部ソウル資金室 中野 博文

■ 先月の為替相場

10月のドル/ウォン相場は、大きく下落。中秋で韓国が連休となる中、海外では週末にトランプ大統領がCOVID-19に感染する等、リスクオフムードとなり、5日は1166.5ウォンでオープン。バイデン氏の支持率が伸びトランプ大統領とのリードを拡大したことを受けて、米大統領選が接戦とはならず選挙後の混乱が起きないとの見方が広がったことや、トランプ大統領が航空業界および中小企業支援案をツイートしたことで市場のセンチメントが改善。8日には1153.3まで下落した。その後は節目の1150付近でもみ合ったものの、ウォン高懸念を意識した輸出企業によるウォン買いフローが入ると、1150を下抜け。14日には企画財政部が口先介入を実施するも、ドル/ウォンが反発するまでには至らなかった。さらに翌週の19日には米追加景気対策案が大統領選前の合意する可能性が意識されたほか、引き続き実需のウォン買いフローに押される形で一気に1131.1まで下落した。22日には当局からの為替介入と思われる動きもあり、1138.5まで反発。しかし、特段ドル/ウォンが上昇する材料が見当たらない中、すぐに反落。さらに欧米でCOVID-19の感染が再拡大し、欧州では各地で規制強化が図られると、相対的にCOVID-19の影響が限定的なウォンがさらに買われる展開に。27日発表の韓国の3Q(結果:前期比1.9%増、予想:同1.3%増)は、製造業が牽引し良好な結果となったことも材料視され、1130も下抜け、月安値1125.0まで下落。しかしながら、当局からの介入と思われる動きが入り、反発。結局1135.1でクローズ。

■ 今月の見通し

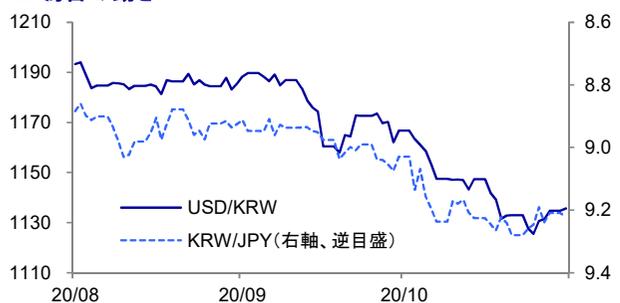
11月のドル/ウォン相場は上値の重い展開が継続することを予想する。11月3日に米大統領選を控え、接戦となり結果が出るまでに時間がかかる場合には市場ボラティリティが高まりリスクオフのドル買いの可能性もあるものの、最終的には現行の緩やかな金融政策を受けてドル売りの流れが継続することを想定する。その他、市場の注目として欧米を中心としたCOVID-19の感染再拡大があり、すでに規制強化となった欧州に続き、米国も再び外出禁止などの感染防止に向けた規制が強化される可能性がある。韓国はCOVID-19の影響は限定的であることから、ドルに対し買われやすくこちらもウォン高要因となろう。金融政策は、引き続き米韓ともに様子見ムードを予想。FRBは平均インフレ率が2%になるまで現在の緩やかな姿勢を続けることを示唆している一方で、イールドカーブコントロールの効果について懐疑的であり、FRBはしばらくはコロナウイルス対応として導入した債券購入プログラムの買い入れ条件を調整することで緩和を図られると思われる。韓国は10月14日の会合では今年の成長率見通しを▲1.3%から変更していない以上に、3QGDPは前期比1.9%と市場予想よりも良好となっていることから、これ以上の追加緩和の可能性は低いだろう。よって、金融緩和と起因によるドル/ウォンの変動は限定的となろう。かかる状況可、ドル/ウォンは下値目途として意識される1100を目指し下落する展開を予想する。急激な下落となっていることから、当局からの介入が入ることが想定され、一時的に反発する局面も想定されるものの、そこはむしろドル/ウォンのショートポジションを構築する機会として捉えられ、再び下落する展開を予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のギフト事情』
 当地のギフトで特徴的なものとして、11月11日のペペロの日があります。日本ではおなじみのポッキー&プリッツの日である11月11日ですが、韓国ではポッキーに近い商品としてペペロというお菓子があります。毎年この日が近づくと、コンビニの前にはペペロが山のように積み重ねられたブースが登場し、仲の良い人や友達に贈るためのペペロが売られます(日本で節分の日にコンビニの前に太巻きが売られている光景と似ております)。韓国の方々はそのペペロを買って周りの人と親交を深めるのがならわしとなっております。ペペロとは韓国語でヤセッポチという意味で、美しいスタイルを目指す韓国人ならではのネーミングとなっております。そういうこともあって女子高生がペペロのようにスタイルがよくなりたいという意味を込めて、11月11日をペペロの日というようになり、瞬間に韓国中の行事になったようです。そんな韓国人が愛するペペロですが、現在日本での販売はしていないようです(韓国食品を輸入する店に行けばあるかもしれませんが)。コロナ下で日本の皆様も韓国に遊びに来れるのはもう少し先になるかと思いますが、いつかお越しになる機会があれば、ペペロをご賞味ください。

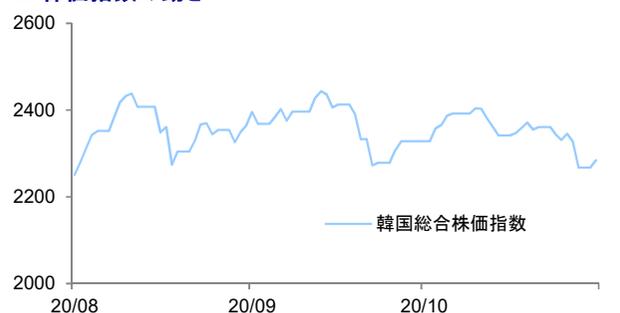
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	輸入(前年比)	9月	-5.1%	1.1%	-15.8%
10/1	輸出(前年比)	9月	3.5%	7.7%	-10.2%
10/1	貿易収支	9月	\$8900m	\$8880m	\$3797m
10/6	CPI(前年比)	9月	0.5%	1.0%	0.7%
10/14	BOK政策金利発表	9月	0.5%	0.5%	0.5%
10/27	GDP(前年比)	3Q速報	-1.8%	-1.3%	-2.7%
10/28	消費者信頼感	9月	-	91.6	79.4
10/30	鉱工業生産(前年比)	9月	3.1%	5.4%	-0.3%

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 28.40 ~ 28.90
TWD/JPY 3.60 ~ 3.70

■ 先月の為替相場

10月のドル/台湾ドルは約9年ぶりの安値水準に。

ドル/台湾ドルは29.100でオープン。10月は中秋節で連休からスタートしたが、連休明けは、9月末の台湾ドル高の流れが継続。輸出企業が9月末に売り切れなかったドルを売るフローや、台湾ドル高に耐え切れなかった輸出企業からの売りが入り、10/6には一時28.710まで下落。その後は米株につられた台湾株の動きをみながら、ドル/台湾ドルは28.7台でもみ合う展開に。月半ばに入ると、米国の追加経済対策の合意への期待から米株が上昇したことを受け、台湾株が上昇し、台湾ドルは買われる場面も見られた。10/12には一時28.600まで下落したものの、米国の追加経済対策への期待が後退し、台湾株も下落すると、ドル/台湾ドルは徐々に上昇し、28.750付近まで戻した。月後半に入ると、28.650付近での推移が続いたが、月末に近づくと輸出企業のドル売りが徐々に優勢となり、10/27には28.600割れ、10/28には一時28.565と直近の安値を更新し、約9年4か月ぶりの水準に。しかし、欧州を中心に新型コロナウイルスの感染再拡大が警戒され、台湾株も下落すると28.600付近で底堅く推移した。

■ 今月の見通し

11月のドル/台湾ドルは台湾ドル高を見込む。

9月については、四半期末であったことから輸出企業のドル売り圧力が終始強かったが、10月についても輸出企業のドル売りの圧力が強かった。貿易動向をみると、9月の輸出額は前年同月比+9.4%、先行指数となる輸出受注額も前年同月比+9.9%増加と、9月単月の最高額を更新しており、好調さは変わらずである。11月についても、実需ベースでの台湾ドル高が続くであろう。今年の台湾の輸出にとっては、新型コロナウイルスによるテレワーク需要の増加、米中対立による半導体関連の需要増等がプラス材料となっている。新型コロナウイルスについては感染再拡大が危惧されており、引き続きテレワークの需要は維持されるであろう。米国大統領選についても、バイデン氏は親中派ではなく、いずれの候補者が勝利したとしても、米中対立がすぐに和らぐことは想定しにくい。よって台湾の輸出の伸びは続くであろう。なお、第3四半期の台湾のGDP速報値は3.33%(前年同期比)と好調。内訳をみても民間消費が落ち込む中、輸出の寄与度が大きい。ただ、警戒しなければならないのは、新型コロナウイルスの感染再拡大と台湾ドル高水準そのものである。台湾では新型コロナウイルスの封じ込めに成功したが、欧州では再びロックダウンに迫られており、世界的な景気後退と株価下落により、台湾ドルも売られるか警戒しなければならない。また、現在の台湾ドル高水準は、既に従来型産業(機械等)にとっては苦しい水準にあり、産業界全体で危惧している。節目の28.500を超えるとアジア通貨危機以来の台湾ドル高水準が見えてくるが、産業界からの声に対して当局の行動についても注意が必要だ。

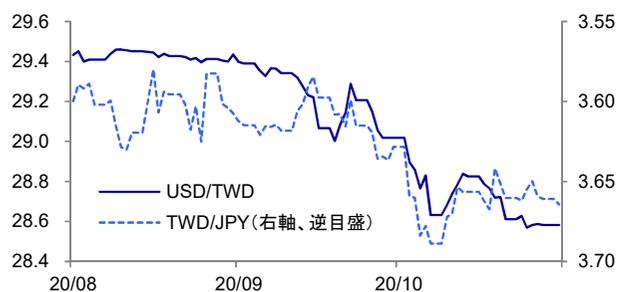
■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地のギフト事情』

当地では中秋節に月餅を送り合います。十五夜のお月様に日本ではお団子をお供えますが、こちらでは月餅をお供えていたことから、食べる、送るという風習になったそうです。企業間でも月餅を送るのですが、中秋節になると会社によっては大量の月餅が手元集まります。全部同じではないにしろ、月餅ばかりでは食べる方も大変です。そこで、最近は変わり種の月餅も売られていますし、もらって喜ばれる焼き菓子や飲み物等も増えています。送られる方にとって、月餅以外はうれいしいかもしれませんが、そもそも中秋節で月餅だったのに、文化がなくなってしまうようで、何かさみしい気がします。あとは中秋節の定番の果物、文旦も贈答用に使われることがあります。日本の文旦とはやや異なり、少し縦長で緑色が強いです。味は苦み、酸味、甘さ控えめなグレープフルーツといったところでしょうか。ただ、皮が固くて剥くのが大変です。中秋節に台湾にお越しの際は、月餅、文旦をご賞味ください。(それと、中秋節は台湾ではパーベキューをするので、知り合いがいれば是非参加させてもらいましょう)

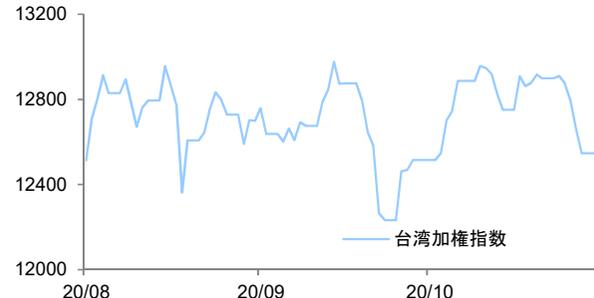
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/7	外貨準備高	9月	-	499.60B	498.17B
10/7	輸出(前年比)	9月	9.6%	9.4%	8.3%
10/7	輸入(前年比)	9月	2.3%	-5.4%	8.5%
10/7	貿易収支	9月	5.65B	7.14B	6.47B
10/8	CPI(前年比)	9月	-0.30%	-0.58%	-0.32%
10/20	輸出受注(前年比)	9月	8.0%	9.9%	13.6%
10/22	失業率	9月	3.80%	3.78%	3.83%
10/23	鉱工業生産(前年比)	9月	6.45%	10.73%	3.60%
10/30	GDP	3Q	1.10%	3.33%	-0.58%

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7500 ~ 7.7700
HKD/JPY 13.25 ~ 13.70

■ 先月の為替相場

【10月の香港ドル直物相場】

10月の香港ドル為替相場は、香港株式市場におけるIPOに関連するフローにより引き続き香港ドル調達需要が強く、香港ドル高の取引バンド上限である7.75付近での値動きが継続した。香港金融管理局(HKMA)は、香港ドルのベッグ制を維持するため為替市場に介入し、連日過去最大規模の香港ドルの売却を実施した。11月に控える中国フィンテック企業のIPOは、上海・香港株式市場で合計350億ドル規模に上ると予想されており、株式購入申し込みのための資金流入を引き起こした。ストックコネク(中国本土市場との株式相互取引制度)を通じた香港株購入の取引が長らく継続していることも香港ドル高に寄与している。香港ドル買い米ドル売りのキャリー・トレードについては、1年物の米ドル/香港ドルのフォワード・ポイントが+40ポイントまで下落したことから、低調だった。香港の労働市場はコロナウイルス感染拡大第三波の中で悪化し、9月の失業率は前月の6.1%を上回り、16年ぶりの高水準となる6.4%(市場予想6.2%)となった。政府による雇用支援制度の効果は薄れてきており、今後実行されるであろう各企業の雇用削減計画は数カ月で失業率を押し上げることになるだろう。

【10月の香港ドル金利市場】

HKMAは香港ドル売り為替介入を強め、HKMAのアグリゲートバランスは2016年初め以来となる3,800億香港ドルを上回り、その後月末にかけて過去最高となる4,500億香港ドル以上に増加した。香港株式市場におけるIPOに関連する香港ドル調達需要とHKMAによる香港ドル売り介入が互いに打ち消し合い、10月の香港ドル金利は比較的堅調に推移した。1か月物および3か月物の香港ドルHIBORは、10bps程度低下し、それぞれ0.40%および0.50%付近となった。一方、1か月物と3か月物の香港ドルHIBORと米ドルLIBORのスプレッドは+30bps付近まで縮小した。香港ドルの流動性が潤沢であることから、3か月物のHIBORは5年物のスワップレートを下回り、僅かにネガティブキャリーへと転じた。

■ 今月の見通し

【11月の香港ドル直物相場】

中国企業の活発なIPOにより、年末まで香港ドル相場は取引バンド上限である7.75付近の水準を維持すると予想する。そういった意味では、11月初旬の中国フィンテック企業の巨額IPO後も、香港ドル相場が大きく下落することはないと考える。例えば米大統領選後に、米国の大統領や閣僚が変更になろうとも、米中間の緊張関係が転換することは無いだろう。このため、米国証券取引所に上場している中国企業は、米国の対中政策に関するリスクを軽減する目的で香港での重複上場を引き続き模索することになる。他の中国企業も、米国より香港での上場を好むだろう。米国による香港への制裁のリスクは概ね一服したが、香港の国際金融センターの地位を損なったり、香港ドルのベッグ制に影響を及ぼすような新たな制裁は、香港からの資本流出圧力を高める可能性がある。FRBは今後数年間、金利をゼロ%近辺に維持する公算が大きく、香港ドルと米ドルの金利差は縮小したままとり、キャリー・トレードは抑制される可能性が高い。

【11月の香港ドル金利市場】

HKMAによる大量の流動性供給を受けて、香港ドルの流動性は引き続き潤沢になるだろう。HKMAによる香港ドル売り介入は、連日過去最大規模の介入が行われ、HKMAのアグリゲートバランスは月末にかけて4,500億香港ドルを超過した。HKMAは当面、IPO需要を満たすだけの十分な香港ドルの流動性を維持する可能性が高いが、過剰な香港ドルの流動性については、為替基金証券の発行を増加させることで吸収を始める可能性がある。振り返ってみると、2015年後半にアグリゲートバランスが4,300億香港ドル近くまで上昇した際に、HKMAは香港ドルの流動性の引き締めを開始した。しかし、HKMAはおそらく、主要中央銀行がコロナウイルスの感染拡大後に大量の流動性供給を実施しているため、アグリゲートバランスが4,500億香港ドルを超えることも許容するだろう。短期ゾーンの香港ドル金利は今後実施されるIPOの募集期間中には上昇圧力を受けるだろう。一方、長期ゾーンについては、FRBが平均インフレ目標を掲げ長期的に米金利は低水準で継続する見通しであることから、ベッグ制の下では香港ドル金利も同じく低水準で推移するだろう。

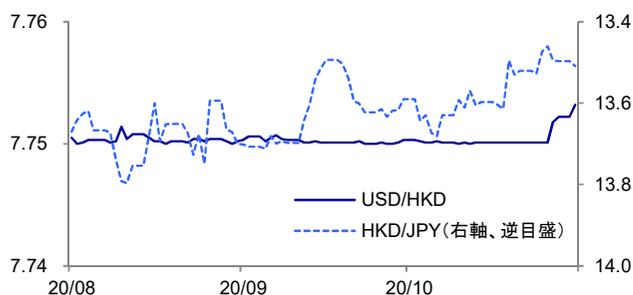
■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地のギフト事情』

香港では贈り物をする習慣は日本人ほど一般的ではありませんが、香港では特定のイベントに合わせて仲の良い友人や恋人によく贈り物をします。旧正月では、訪問客がよく手土産として友人や親戚の家にチャイニーズケーキや地元のお菓子を持っています。中秋節には月餅を贈るのが一般的ですが、ここ数年はアイスクリームやカスタードが入った新しいスタイルの月餅が人気です。誕生日プレゼントに関しては、カップルは高級ブランドの財布やアクセサリを贈りますが、花の贈り物は間違いなく女性に喜ばれるでしょう。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/7	日経香港PMI	9月	-	47.7	44
10/8	外貨準備高	9月	-	\$453.3b	\$449.9b
10/19	総合利率	9月	-	0.36%	0.41%
10/20	失業率(季調済)	9月	6.2%	6.4%	6.1%
10/22	CPI(前年比)	9月	0%	-2%	0%
10/27	輸出(前年比)	9月	0.2%	9.1%	-2.3%
10/27	輸入(前年比)	9月	-1.9%	3.4%	-5.7%
10/27	貿易収支(HKD)	9月	-22.1b	-12.7b	-14.6b
10/30	GDP(前年比)	3Q	-5.60%	-3.40%	-9.00%
10/30	GDP(季調済/前期比)	3Q	0.7%	3.0%	-0.1%

(資料) ブルームバーク

中国人民元相場

予想レンジ:

USD/CNY	6.6500	~	6.9500
CNY/JPY	14.53	~	16.09
100JPY/CNY	6.2100	~	6.8800

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 竹本 寛

■ 先月の為替相場

10月のUSD/CNYは大きく元高進行し一時6.64台へ

国慶節明けのオンショア人民元は元高方向に大きく窓を開けてギャップオープン。国慶節前に開催された米大統領選挙候補者討論会にて、バイデン氏優勢との見方が広がドル売り圧力が強まる中、オフショア人民元は連休中堅調に推移。オフショアを追う形でオンショアも6.73台でオープンすると、その日のうちに6.69台まで元高進行。

13日から金融機関の中国人民銀行(PBOC)への外貨リスク準備金預入が実質撤廃(準備金率:20%→0%)となったこともあり、一時的に元安方向へ戻すこととなるも、長くは続かず再び元高地合へ。

21日には米国の追加経済対策合意への期待感を背景にリスク選好ムードが高まりドル売り人民元買いが加速。2019年3月の下値6.67レベルを下抜けると、さらに元高が進み一時6.64台へ。その後はドルに買い戻しが入り反発している。

月末にかけては、欧米のコロナウイルス感染再拡大により、一部の国でロックダウン(都市閉鎖)が行われることによる、経済への打撃が意識されドル買い圧力が強まり6.70を超える水準へ。28日からは仲値算出時の反循環的調整要因の使用を停止しており、人民元管理を緩和する動きが続いている。

■ 今月の見通し

11月のUSD/CNYは上値重い推移を予想する。

PBOCが外貨リスク準備金制度の実質撤廃、反循環的調整要因の使用停止を行うなど、人民元管理を緩和しており、一時的に元安方向に振れる場面もあったものの、元高トレンドを変えるまでには至っていない。

新型コロナウイルス危機対応から正常化への転換が他国に先んじて進んでおり、米中の金融政策格差、ファンダメンタルズが意識されやすく、相対的な人民元のサポート材料となり、中長期的には引続き元高地合いを予想する。

更に米大統領選挙において、バイデン勝利かつ上下院ともに民主党が制するようになれば、難航している米国経済対策が成立することが見込まれ、市場にはポジティブな材料となり、更に人民元高圧力が強まると思われる。

リスクシナリオとしては、米大統領選挙後の米中通商問題の再燃、香港や南シナ海、在米中資系企業を巡る対立激化に伴う、元安進行の可能性を無視はできないだろう。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のギフト事情』

当地でのビジネスにおける贈答品で有名なのは中国酒白酒でしょう。大衆酒としても知られているアルコール度数の高いお酒であり、世界的な販売量ではウォッカを上回っているようです。そんな白酒の高級酒は公的な宴会で飲まれたり、ビジネスでの贈答品として愛用されています。

アルコール度数は50%程度と高いものの、飲みすぎても二日酔いはせず、むしろ適度な飲用は健康に良いとされ、風邪を引いても薬は飲まず、白酒を飲んで治すという人がいるほどらしいです。(私は飲んだ次の日バッチリ二日酔いになりました。適度で無かったです。う•••••)

ちなみに年代物の高い物では数十万円するものも。白酒No.1ブランドである茅台は年間1兆円以上売り上げており、茅台株は中国本土上場株の中で時価総額1位。世界的に見ても、コカ・コーラを超え飲食産業における時価総額世界一となっています。影響力の大きさが分かって頂けるかと。

それだけ当地では愛されている白酒ですが、日本で認知度はイマイチな印象。中国に来られた際には是非一度試してみたいかでしょうか？

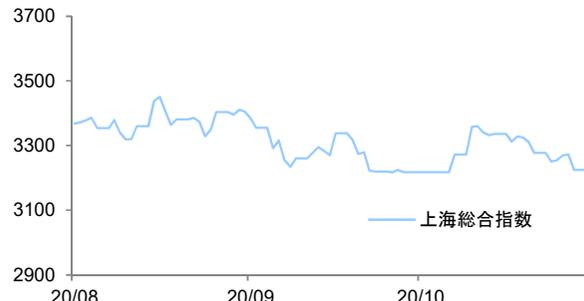
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/9	財新・サービス業PMI	9月	54.3	54.8	54.0
10/13	貿易収支	9月	\$60.00b	\$37.00b	\$58.93b
10/15	PPI(前年比)	9月	-1.8%	-2.1%	-2.0%
10/15	CPI(前年比)	9月	1.9%	1.7%	2.4%
10/19	GDP(前年比)	3Q	5.5%	4.9%	3.2%
10/19	鉱工業生産(前年比)	9月	5.8%	6.9%	5.6%
10/19	小売売上高(前年比)	9月	1.6%	3.3%	0.5%
10/19	都市固定資産投資(年初来/前年比)	9月	0.9%	0.8%	-0.3%
10/20	LPR1年物	-	3.85%	3.85%	3.85%
10/20	LPR5年物	-	4.65%	4.65%	4.65%

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3500 ~ 1.3900
SGD/JPY 75.50 ~ 77.00

アジア・オセアニア資金部 成田 隼基

■ 先月の為替相場

2020年10月のシンガポールドル(SGD)相場は、小幅にSGD安が進行。

SGDは月初から10日にかけて上昇。トランプ米大統領の容体が改善したとの報道や、米国で企業支援に向けた直接給付金法案が検討されているとの噂が流れる中、株高、ドル安、新興国通貨高の展開となった。9日には休場明けのCNYが大幅に上昇し、SGDのサポート材料となった。月初1.36台半ばで推移していたUSD/SGDは、一時1.35台前半半までSGD高が進行した。

しかしその後、12日の週よりSGDは反落。前週末、中国人民銀行が為替フォワードの準備金要件を撤廃するとの発表を行ったことによりCNYが売られ、新興国通貨は全般的に上値重く推移。米製薬会社によるワクチン臨床試験中断のニュースや、米国の追加経済対策への期待感後退も重なり、リスクオフムードが台頭する中、SGDは売られた。

20日、タイで連日続く政府への抗議活動によりTHBが軟調に推移するなど、引き続き新興国通貨は軟調地合い。しかし、欧米株が反発し、米国の追加経済対策合意への期待感が高まったことを受けて、リスクオンムードが広がった。USD/SGDは再度、1.35台前半の水準までSGD高が進行した。

だが、こうした動きは月末にかけて失速。欧州にてCOVID-19の感染再拡大が取り沙汰される中、株価は下落。それと共にEUR安、USD高とリスクオフの動きが広がる中、SGDは軟調に推移。一時1.35台前半で推移していたUSD/SGDは一転上昇し、現在、1.36台半ばの水準で推移している。

■ 今月の見通し

2020年11月のシンガポールドル(SGD)相場は、SGD安の進行を予想。

シンガポール金融管理局(MAS)は10月14日、半期に一度の通貨政策見直しを行い、現在の金融緩和スタンスを維持する方針を発表。政策バンドの中心値、バンドの変更幅、傾斜共に据え置きとし、変更は無かった。今回の発表により、緩和スタンスが暫くの間継続することとなる。今回の発表に際しMASは、「景気の悪化やインフレ見通しの弱さを踏まえ、COVID-19による景気下降局面を乗り切るための財政・流動性・金融政策を補完するものであり、適切である」と説明。通産省から発表された第3四半期GDP速報値は前期比▲7.0%(事前予想は前年比▲6.8%)となり、市場予想を下回る軟調な結果であったが、第2四半期GDP(前期比▲13.2%)と比較すればマイナス幅は縮小しており、最悪期は逸したと言える内容。今後のGDP見通しについてMASは、「外部環境の低迷、国内サービス部門の弱さ、旅行関連セクターの回復の鈍さを背景に、回復基調は穏やかなものとなるだろう」との見通しを示しつつ、「新型コロナウイルスの世界的なパンデミックが再拡大しない限りにおいて、2021年にシンガポール経済は拡大するであろう」との予想を示した。なお、今回のMASの決定は市場予想の範囲内であり、相場への影響は限定的なものに留まっている。引き続きSGD市場については、米中関連トピックス、及び各国の新型コロナウイルスの対応状況に振られる地合いが続こう。米大統領選の行方は混沌としている。選挙結果の確定が年明け以降になることも有り得るため、市場では波乱要因となろう。また、新型コロナウイルス関連のトピックスについては、有効とされるワクチンの開発について明るい材料が増えつつあるとの見方が強い一方、新興国については各国毎の供給力の問題から、感染終息に時間を要する可能性に留意したい。新興国各国が抱える構造問題等、脆弱性が取り沙汰される場合、如何にシンガポール経済が回復基調を示そうとも、SGDは軟調推移となる。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

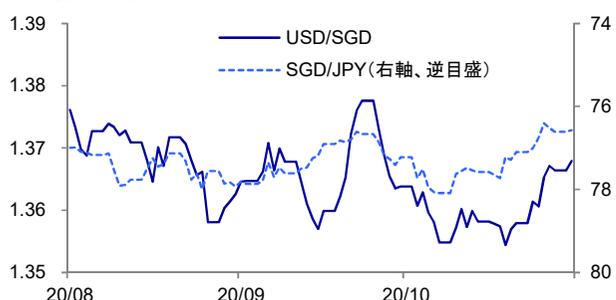
『当地のギフト事情』

当地のギフト事情、、、思いつかない。個人的には難しいテーマです。といいつつひねり出してみたのですが、中秋節のころになると各デパートには月餅の催事場が設けられて、有名ホテル中心に出店がされており、さながら月餅ギフト商戦といった感じです。毎年、新しいフレーバーの月餅が発売されるので、催事場での味見が楽しいです。日ごろお世話になっている人や親族への贈答用ということもあって、決して安いものではないですが、10箱単位で大量に購入している姿をよく見かけます。日本のお中元やお歳暮みたいなもんなんですかね。パッケージもとても豪華、1箱あたり5000円くらいはします。ここで疑問に思ったのは、自分が10箱の月餅を送るということは、自分も10箱の月餅を頂くことがある訳で、一家庭で消費するのが大変だなということ。NSにも聞いてみたら、月餅は日持ちするから少しづつ食べ進めるが、やっぱり飽きるよねとっておりました。ちなみに筆者は月餅が大好きなので、毎年自宅用に1箱購入しています。催事場で全ての月餅を味見し、吟味した一つを購入するという結構けち臭いことをしておりますが、これも含めて毎年楽しみだったりします

(アジア・オセアニア資金部 小川)

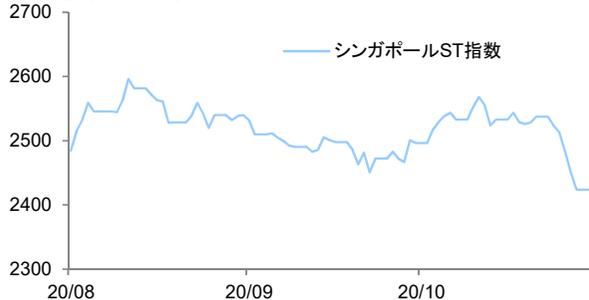
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/2	購買部景気指数	9月	50.2	50.3	50.1
10/5	小売売上高(前年比)	8月	-5.8%	-5.7%	-8.5%
10/14	MAS Meeting				
10/14	GDP(前年比)	3Q	-6.8%	-7.0%	-13.3%
10/16	非石油地場輸出(前年比)	9月	11.5%	5.9%	7.7%
10/23	CPI(前年比)	9月	-0.3%	0.0%	-0.4%
10/26	鉱工業生産(前年比)	9月	2.5%	24.2%	15.4%
10/30	失業率	3Q	3.7%	3.6%	2.9%

タイバーツ相場

予想レンジ: USD/THB 31.00 ~ 31.60
THB/JPY 3.25 ~ 3.45

アジア・オセアニア資金部 バンコック室 鈴木 一勲

■ 先月の為替相場

ドル/バーツは31.60近辺で10月を迎えた。2日にはトランプ米大統領が新型コロナウイルスに感染したとの報道を受けて、31.60台半ばへ上昇するが、米9月雇用統計が強弱混交の結果となったため、方向感出にくく1週目を終えた。翌週5日には前週末の報道から一転、トランプ大統領が早期に退院出来る可能性との報道受け、31.50を割り込むと、リスクオンのドル売りが継続、一気に31.30台までドル安が進む。その後は米追加経済対策の協議進展に関するヘッドラインに一喜一憂し、31.10から31.40の間を上下することとなったが、市場参加者の楽観的な見通しから多くのエマージング通貨が対ドルで堅調に推移。第2週の週末には31.00台で越週。

中旬、中国人民銀行の元高抑制措置の発表を受けてドル人民元が上昇する動きにつられ、ドル/バーツは一時31.20台へ反発するが、祝日前に海外時間では上げ幅を縮小。休暇明け14日には反政府デモへの懸念で31.30台を窺う動きが見られ、実際に大規模なデモが行われても、武力衝突には至らず、反政府デモが行われた割に比較的落ち着いた動き。15日には5人以上の集会を禁止する非常事態宣言が発令され上下に振れたが、今後の展開を見極めようとしてなのか31.20を中心としたレンジ相場となって3週目を終えた。翌週には反政府デモが継続する中でバーツ売りが強まるタイミングもあり、一時31.30台に乗せるが、持続せず。

下旬には、米追加経済対策に関する楽観的な見方と欧米の一部地域で続く感染第2波への警戒感が入り混じり、且つ大統領選挙も近づいてきていの中でポジションを傾けにくい地合いとなり、31.10半ばから31.30近辺で方向感に欠ける展開が続いた。月末週には長引くデモの対応を巡り臨時国会が開かれ、問題解決に向けて委員会を設置するとブラユット首相がコメント。これを好感して31.10前半まで下げるが、独や仏で再び全国的なロックダウンが予想されると、再び31.20台を中心としたレンジ推移を示した。

■ 今月の見通し

欧州や米国の中西部で見られる新型コロナウイルスの感染拡大や、米追加経済対策における政権側と民主党が付かず離れずで選挙前に合意が難しい状況に陥っていたにも関わらず、10月に入ってからエマージング通貨の対ドル騰落率を見ると、比較的楽観視されている印象。米大統領選挙というビッグイベントを前にあまりポジションを傾けることが出来ないという背景もあるのだろうが、それでも今月のアジア通貨は底堅い動きを見せている通貨が多い。タイバーツも月初からでは小幅に対ドルで上昇、国内で続くデモの影響を大きく受けている印象はない。11月始めに行われる大統領選挙では、選挙人が多い激戦州でも郵便投票の締め切りを翌週に設定している州があるため、雌雄を決するに時間がかかるとの見方がある一方、開票には郵便投票でもそれほどかからないと見る向きもあり、何とも読みにくい状況。そのため11月第1週は様子見ムードとなってレンジ推移になるのではないかと。その後、2週目を以降に動意付く展開が予想されるが、優位だと報じられているバイデン候補、現職のトランプ大統領のいずれが当選しても、追加財政出動への期待で米長期金利が上昇すれば、11月後半にかけてドルの買戻しが入ると予想。

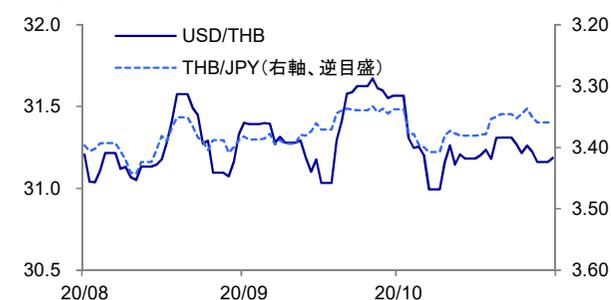
■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地のギフト事情』
“所変われば品変わる”とはよく言ったもので、タイでは年に1回、年末年始に「グラチャオ・ピーマイ」というバスケットに入った贈り物をお世話になった人や取引先の会社へ贈るしきりがあります。直訳すると「新年のかご」という意味を持つこの「グラチャオ・ピーマイ」は11月下旬からスーパーマーケットやデパートなどの棚に並びます。値段は1,000バーツぐらいからあり、中身は嗜好品や果物などが中心となっているようです。このプレゼントの良いところは、中身がどのようでも変更可能という点です。送る相手の好きなものを考えて、バスケットに自分のセンスと感謝の気持ちを一杯に詰めることが出来ます。

郷に入っては郷に従えということで、今年の年末年始は日本のお歳暮に変えてお世話になった方に「グラチャオ・ピーマイ」を贈ってみようかと思います。

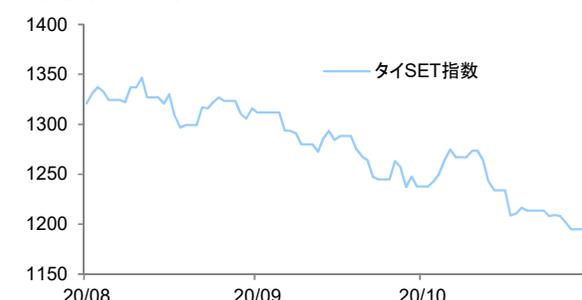
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/5	CPI(前年比)	9月	-0.50%	-0.70%	-0.50%
10/5	9月	9月	0.22%	0.25%	0.30%
10/8	消費者信頼感指数	9月	--	50.2	51.0
10/22	輸出(通関ベース/前年比)	9月	-4.20%	-3.86%	-7.94%
10/22	輸出(通関ベース/前年比)	9月	-15.80%	-9.08%	-19.68%
10/22	貿易収支(通関ベース)	9月	\$3338M	\$2230M	\$4349M

マレーシアリング相場

予想レンジ: USD/MYR 4.1000 ~ 4.2000
 MYR/JPY 24.8000 ~ 25.5000
 JPY/MYR 3.9300 ~ 4.0300

マレーシアみずほ銀行 関上 伸一

■ 先月の為替相場

10月のUSD/MYRは、民主党優勢が伝わる米大統領選情勢を受けたUSD安基調が継続する一方で、新型コロナの国内再拡大と11月予算国会を控えた政局混迷がMYRの重石となり、4.13~4.17の狭いレンジでの推移となった。

9月末のFTSEラッセル世界国債インデックス構成銘柄見直しで馬国債組入継続が決定され、政府が11/6発表の21年度政府予算で財政赤字対GDP比率の大幅な悪化を回避する方針を示したことから、月初USD/MYRは4.15を割込んでオープン。しかし、トランプ米大統領の新型コロナ感染や、サバ州議選を端緒とする当地国内感染者数の急増が嫌気され、2日に4.17手前まで反転上昇。

しかし中旬に掛けては、6日の国内新規感染者数が過去最高を記録し、8日に野党アンワル党首が「国王に謁見を許された。下院の過半数支持を得ている」と繰り返した波乱があったが、米国追加刺激策の財政負担が意識される中で、米国を襲ったハリケーン・デルタによる供給遮断やノルウェーの石油労働者のストライキから\$40/bblを割っていた北海ブレントが\$43台へ回復した事がMYR支援材料となり、12日に4.13レベルに反落。だが、感染拡大から同日政府は首都圏で14日から2週間の条件付活動制限令再施行を発表。3月の当初導入以来初めての規制強化となり、今後は殆どの経済活動が継続を許容されているものの、零細・中小企業への影響が懸念される中、再度4.16手前に反発した。

下旬に掛けては、11/2の予算国会開幕を控え、ムヒディン連立政権最大与党UMNOの元財相が内閣不信任動議を提出し、UMNOも要求書を首相に提出するなど、政局が混迷。然しこれに拘わらず、強めの中国指標と世界的ドル安に連れ、USD/MYRは再度4.14割れ迄反落。政権運営を案じた首相が非常事態宣言発動を提案も、25日に国王は不宣言を判断し、併せて予算通過への協力を与野党に要請。USD/MYRは一時4.16台に反発も、9月輸出指標の予想を超える強さに反落。10/28時点で4.14台で推移している。

■ 今月の見通し

11月のUSD/MYRは4.10~4.20レンジでの推移を予想。米欧の新型コロナ感染拡大と民主党優勢の大統領選はUSDの弱材料と見られる一方で、国内もコロナ第3波が収束の兆候を示さず、首都圏に再導入された条件付活動制限令が年内の国内経済活動に影を落とす。11/6に国会に上程される来年度政府予算案は「戦時」積極財政継続に見通しながら、既に「Aマイナス」のソブリン格付の見通しをネガティブに引き下げている大手格付機関や海外投資家に対して、アフターコロナの財政健全化の道筋を示すメッセージが求められる。斯かる中で収束しない政局不安はMYRの重石となろう。

10月に入りサバ州議選を端緒とする新型コロナ感染拡大がボルネオ島からマレー半島にも飛び火。10/14に首都圏(クアラルンプール・セランゴール・プトラジャヤ)を対象に、政府は条件付活動制限令を再導入。5月時と異なり殆どの経済活動は継続可能とされるが、首都圏の民間消費にはネガティブな影響が残る、Q4GDPの下押し材料となる。

21年度政府予算案は第12次マレーシア開発計画の初年度の位置付けであり、ムヒディン政権もマハティール前政権が発表した中期ビジョン「シェアード・プロスペリティ2030」を踏襲する方針を表明済みで、基本戦略に大きな変化はない見通し。然しながら、年末で切れる貸金補助等のコロナ経済対策の後継策が盛り込まれる見通しであり、今年度の財政赤字対GDP比率▲6~7%の着地見込に対し、21年度も▲5%程度と大きめの赤字が予想されている。S&PやFitchはソブリン格付アウトロックを既に引き上げており、予算案への評価が注目される。

掛かる中で政局は依然不安定。アンワル野党党首が9/23に発した「下院過半数支持獲得」発言は、最大与党UMNOのザヒド党首が24日にペリカタン政権の支持継続を表明したことで、一旦不発に終わった様相。国王が予算通過への協力を与野党に求め、野党も議決に前向きな姿勢を示した事で、最悪シナリオは回避見通しながら、政権運営の不安定さは継続し、MYRにとっても波乱材料となる。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地のギフト事情』

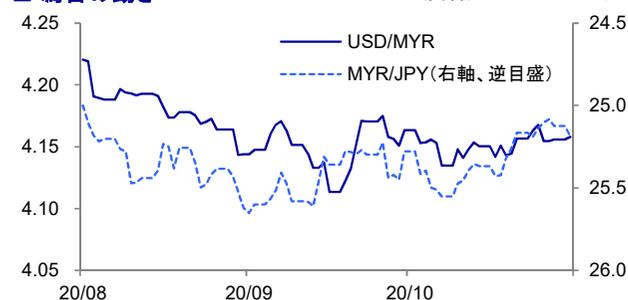
「ギフト」と言うとアラフィフの筆者は日本の中元・歳暮のイメージが浮かぶが、当地でも旧暦の年の瀬には、華人が旧正月用のお酒や鮑などの乾物食材を送り合う。その時期はショッピングモールでもコーナーが設置され、持って帰るのが一仕事になるような巨大なバックケースが山積みされている。会社でお取引先から頂くようなケースでは、オフィスで分解してめいめいがそれぞれ好物を有難く分け合う光景が目に入る。

お土産のラインナップも、当地は充実している。男性向けに喜ばれるのは錫で出来たビールジョッキ。19世紀にマレーシアに華人が多く移住した目的は錫の採掘だったと言われるが、老舗の著名ブランドは「ロイヤル・セランゴール」。KL市内の工場見学は一つの観光スポットだ。小学生の子供たちも、錫で出来たグラスがお気に入りだ。

女性向けの定番は、「ナマコ石鹸」と「タナメラ」のスキンケア製品が二大巨頭と言えよう。ランカウイ島で採れるナマコを原料にした石鹸は保水の良さに定評があるが、KLでも特定の土産物店でしか手に入らない。マレー語で赤土を意味するタナメラは、既に日本でもブランドとして知られており、マッサージオイルの他、入浴剤も各種揃っている。またボルネオ名産の籐や竹を編み込んだカラフルな手提げ籠、ペナンバッグも若い人に人気だが、筆者世代も昔の買い物籠のような温かみを感じることができる。

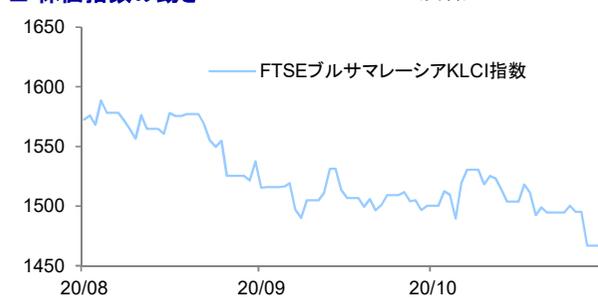
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/7	Foreign Reserves	30-Sep	-	105.0B	104.8B
10/12	Industrial Output y/y	Aug	0.5%	0.3%	1.2%
10/21	CPI y/y	Sep	-1.3%	-1.4%	-1.4%
10/22	Foreign Reserves	15-Oct	-	105.2B	105.0B
10/28	Trade Balance (MYR)	Sep	15.1B	22.0B	13.2B
10/28	Exports	Sep	2.0%	13.6%	-2.9%
10/28	Imports	Sep	-3.5%	-3.6%	-6.5%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 14400 ~ 15200
 IDR/JPY 0.68 ~ 0.72
 JPY/IDR 138.89 ~ 147.06

(注)100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 田才 雄

■ 先月の為替相場

10月のドル/ルピアは、堅調に推移した。ドル/ルピアは月初1日、14900近辺でスタート。1日に発表されたインドネシア9月消費者物価指数の前年同期比はプラス1.42%と、引き続き低調となった。ドル買い需要も落ち着き、ルピアは底堅く推移。翌週初5日、14800台後半でオープンしたドル/ルピアは、「雇用創出に関するオムニバス法案(重複する法令を統合した一括法案)」の審議を前に、期待感から、ジャカルタ株価指数が上昇する中、14800近辺までルピアも上昇した。同法案が賛成多数で可決、成立したことが好感され、オフショアのNDFが大幅なルピア高となったことに連れ、翌6日には、14600近辺まで大きくルピア高が進行した。値ごろ感から、ドル買い需要が強まったこともあり、その後は14700台を中心とした値動きに。インドネシア中銀政策決定会合が13日に控える中、徐々にルピアは方向感を欠く展開となった。月中旬、迎えた13日、インドネシア中銀政策決定会合では、市場予想通り政策金利は据え置き4.00%となった。特段目立った点もなく、無風での通過となった。15日にはインドネシア9月貿易収支が発表され、24億ドル超の大きな黒字を記録した。引き続き、インドネシア国内の経済が低迷しており、輸入が大きく落ち込んでいることが大きく影響した格好となった。材料難の中で、ルピアは底堅く推移し、19日には再び14700を割り込み14600台後半までルピア高が進んだ。月下旬、インドネシアルピアはインドネシア固有の材料を欠く中、14600台後半を中心に底堅さを見せた。月末の長期休暇を前に、ドル買い需要が相応にある中で、14600台を維持し、10月の最終取引日となった27日には14600台前半までルピア高が進み取引を終えた。(29日終値時点)

■ 今月の見通し

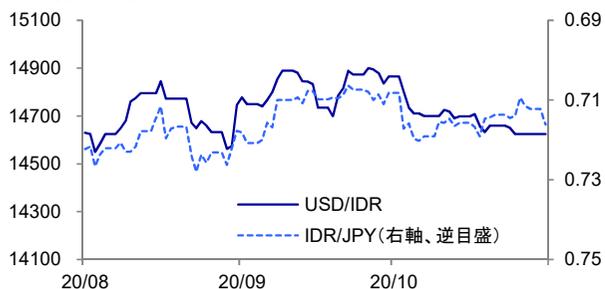
11月のドル/ルピアは、ルピアが下落することを予想する。まずは、間もなく到来する米大統領選の前後では、市場は神経質な動きとなることが想定される。オフショアNDFの値動きが荒くなれば、それにつれて、オンショアのルピアも荒い値動きとなることが想定される。米大統領選の結果がどちらになるかを言い当てることは不可能だが、結果が判明すれば相場は徐々に落ち着きを取り戻し、インドネシア固有の材料へと視点が戻ってくると思われる。そのインドネシアにおけるコロナウイルス感染拡大状況も厳しさが続いているが、主要国で本格的な第2波が到来しており、欧州、米州を中心に深刻さを急速に増している。一部の国では再び都市封鎖政策がとられることとなる等、再び世界経済にダメージを与え兼ねない状況となっている。投資家のリスク回避姿勢が強まることで、インドネシアからの資金流出が短期的に進む可能性に警戒が必要だろう。先月こそオムニバス法案の成立により、インドネシアへの資金流入がルピアをサポートしたものの、雇用主側に有利とみられる法案に対するデモも散発的に発生する等、資金流入が長期に渡って続くかという部分には疑義を持たざるを得ない。法案の詳細や実効性も重要になる。オムニバス法案に関する続報には注意したい。インドネシアへの資金流入については、先月のインドネシア10年物国債は10月26日時点で、海外投資家により前月末対比で22億ドル超買い越されておられ、大きく資金流出した今年3月以降、単月での買い越し額としては最大となった。しかし、中銀による国債の直接買入や、独立性への懸念が燃っていることには変化がなく、巻き戻しの可能性に留意すべきだろう。このテーマに関するヘッドラインも警戒したい。今月のドル/ルピアは、引き続きルピアに関する懸念材料が散見されることからルピア安を警戒したい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

大変恐縮なのですが、諸般の事情により、暫くの間休載とさせていただきます。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	CPI(前年同月比)	9月	1.40%	1.42%	1.32%
10/7	外貨準備高	9月	-	135.2	137.0
10/13	BI 7daysリバースレポ金利	-	4.00%	4.00%	4.00%
10/15	貿易収支(USD M)	9月	2080	2438	2353
10/15	輸出(前年比)	9月	-7.50%	-0.51%	-8.18%

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 47.50 ~ 49.00
 PHP/JPY 2.135 ~ 2.185

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 樋上 陽一

■ 先月の為替相場

月初のドル/ペソ為替相場は、1米ドル＝48.46ペソで取引開始。1日の取引時間終了後にフィリピン中銀は市場予想通り政策金利の据え置きを決定、予想通りの結果に。2日に米トランプ大統領が新型コロナに感染したとの報道で市場が動揺してリスクオフ地合いが強まったものの、値動きは限定的。

2日の米9月雇用統計明け5日も方向感出ず。6日に発表された比9月消費者物価は市場予想と同じ2.3%となり、前月の2.4%から低下。原油価格の低位安定でインフレが抑制されていることが確認されたことがペソのサポート材料となり、米追加経済対策が進まないことを嫌気した米ドル売りが優勢に。

9日には一時1米ドル＝48.28ペソで取引され、年初来ペソ高値を更新した。

その後、ペソ売りに反転。中国人民銀行が2年前に人民元安抑制のために導入した規制を撤廃したことを受けて人民元が対米ドルで軟調になり、その流れがペソにも波及したこと、欧州でのCOVID19感染再拡大懸念で欧州通貨が軟調となりドルインデックスが上昇したこと、8月海外在留フィリピン人労働者送金は前年同月比4.1%減となり、市場予想の同5.3%増から大きく乖離したこと、14、15日には7週間ぶりのドル高ペソ安水準である1米ドル＝48.69ペソで取引された。

月後半にかけては、人民元高トレンドの再開、米国の追加経済対策協議についての楽観的な見方、米株の急落はあっても市場は過度なリスクオフにならなかったことからペソは強含み1米ドル＝48.30～40ペソレベルに。(10月29日現在)

■ 今月の見通し

左記のとおり10月1日にフィリピン中銀は金融政策委員会で政策金利を据え置き、今年のインフレ見通しを前回の2.6%から2.3%に下方修正した。ジョクノ中銀総裁は会見で『インフレが中銀ターゲットである2～4%で推移しており、景気回復の兆候があることから現行の金融政策は適切であると判断』、『景気回復のために追加緩和についてはいつでも準備がある』とコメントした。

また、ジョクノ氏は足元進んだペソ高については『為替レートは市場が判断するもの』、『急変があった場合には介入するがスージングの範囲』とコメント。ペソ高容認にもとれる発言。

10月第4週(19～23日)のドルペソ為替相場は始値が1米ドル＝48.62ペソ、終値が1米ドル＝48.48ペソ。28日には48.33ペソまでペソ高が進んだものの、印象としては実需筋のドル買いにペソの上値は重かった印象。

アジア通貨インデックスも2年3か月ぶりの高値圏、フィリピン株式指数は19日から5日続伸、節目の6000ポイントをあっさり上抜けて23日の終値は6484.06ポイント、16日の終値から10%近くの上昇を記録、COVID19禍で3月に底値をつけた後、6月初旬の戻り高値である6583.84ポイントに迫る反発となったにもかかわらず。

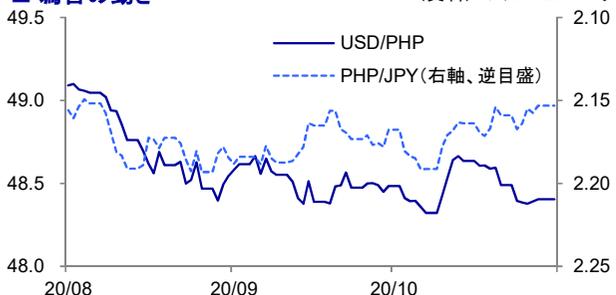
10月第4週のフィリピン株式市場における外国人投資家の週次売買動向は10週間ぶりに買い越しに転じていることからペソ高水準へ相場が押し上げられても驚きはなかった。

無論、現在のドル/ペソ為替相場の水準は4年ぶりのペソ高値圏であることを考えると、客観的にペソ高は進み過ぎ、との見方はできるのだが。

斯かる市場環境では、米大統領選挙というイベントリスクが通過し、相場が落ち着けば、早々に年初来ペソ高値を更新していく展開となりそう。

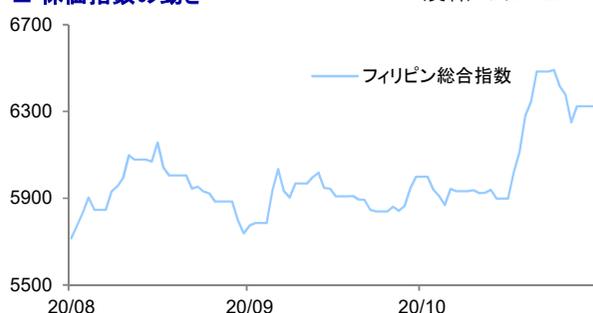
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日 イベント
 上記参照

(資料) ブルームバーク

期間	予想	結果	前回

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 72.00 ~ 75.00
INR/JPY 1.37 ~ 1.46

アジア・オセアニア資金部 インド室 田川 順也

■ 先月の為替相場

【10月の米ドル/インドルピーはもみ合った後、上方向にブレイクした】
73.615で当月取引をスタート。三連休前に流動性が薄くなる中、73.05まで下落。翌週初5日は印企業の小売部門への海外企業からの出資が話題となり、ルピー買い優勢となったが、当局によるドル買い介入が一貫して入り、下値攻めとはならず。その後は新型コロナに感染したトランプ大統領の退院によるリスクセンチメントの改善や、印国内要因では複数の米ファンドによるリライアンス・リテールの株式取得が総勢16億米ドルになるなど、ドル売り/ルピー買い材料が並んだが、結局ドル買いの為替介入に吸収される流れ。9日にはインド中央銀行の政策会合の結果が発表され、これを受けて当月安値となる73.02を示現するも、為替介入の警戒感から73台割れは失敗。

12日週に入ってから、海外からの資金流入によるルピー買いVS為替介入によるルピー売りという図式は継続。米国では財政刺激策と大統領選挙という二大要因がいずれも不透明な展開で動きづらく、19日まで8営業日連続で73.00-73.50のレンジ内での動きに終始。

ブレイクしたのは20日でインド中銀が積極的にドル買い為替介入をしているとの話題に73.50を越えていく展開。22日、23日と73.80を上限としてもみ合ったが、欧州各国で新型コロナ感染第2波のパンデミックが深刻化する中、コロナ対策のための新規制・再制限が相次いで発表されるとリンクセンチメント悪化から新興国通貨は選好されづらい展開。ドル/ルピーは一段と上昇する中74.00を前に粘りを見せたが、結局月末には74.17の当月高値をつけ74.11で当月取引を終えた。

■ 今月の見通し

【11月の米ドル/インドルピーは大きな動きがない展開を想定】

引き続きインド国内材料は従前と同じである。10月も外国人投資家はインド株式市場において売り買い合算して27億ドルの買い越し。また流出が近づいていた債券についてもインド中央銀行が公開市場操作で債券購入を行うことを発表したことから流入に反転、同外国人投資家のポジションは10月約4億ドルの買い越しとなっており、株式・債券ともに外国資本の流入を誘った。また直接投資では既述のように印大手財閥小売企業に対して1500億円以上の出資があつまっている状況でリアルマネー系の動きはドル売り/ルピー買いに傾倒。一方でインドの外貨準備高は9月最終週対比で10月16日週までにおよそ130億ドル積みあがっており、上述の海外資金流入を吸収して余りあるほどのドル買いが印当局から出ている算段となっている。

市場参加者のコンセンサスでは73.00割れは当局のドル買い為替介入によって阻まれる一方、74.00から上は旺盛な海外資金流入に伴ったドル売りが出るとの意見が強く、結局73-74のレンジ相場になるのでは。

ただ、とかく株式市場への資金流入はインドの感染者数減少を当て込んだものであり、金融都市ムンバイでは感染者数が高水準であることや、首都デリーでは大気汚染が最悪の水準にまでなっていることに鑑みれば危ういと言わざるを得ず、第2波により感染者が拡大し、景気悪化への懸念から株式市場に下方圧力がかかっている欧米の二の舞となる可能性は拭えない。

メインシナリオは現状のレンジ相場継続を見るが、新型コロナ拡大というリスクシナリオを勘案すればドル/ルピーのリスクはアップサイドにあるだろう。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地のギフト事情』

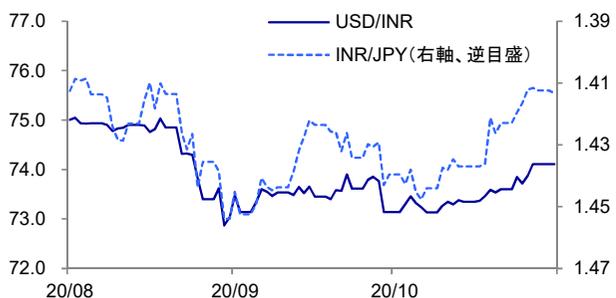
日本でギフトを渡すのが、お中元・お歳暮だとしたら、インドでギフトを渡すのはディワリ(Diwali)という新年を祝うイベントです。ディワリはヒンドゥー教の女神ラクシュミーをお祝いする日となっており、ラクシュミーは財運を意味する女神でもあることから、お金を使うと縁起がよいとされ、ショッピングシーズンともなっています。同時に人々の間でも贈り物が交わされます。会社によっては給料日を前倒しして、ディワリに備えたり、ディワリボーナスが出たりします。今年は11月半ばがディワリにあたりますが、オンラインサイトではすでに商戦が始まっているようです。

ディワリが終わると今度は結婚式シーズンが始まります。この結婚式では、ご祝儀を渡すことがあるのですが、金額には1ルピーを追加して渡します。たとえば、501ルピー、1001ルピーのように。一説には、1ルピーコインを送ることで、受け取った側が何件の贈答があったかすぐに確認できる、という考え方もあるようですが、よく言われるのは、日本の風習と同じように割ることができない数にすること、さらにゼロは終わりを意味するため、よい意味がないからだそうです。そのため、インドのご祝儀袋にはあらかじめ1ルピーが貼り付けられているものもあります。

1ルピーを追加するのは、寄付のときも同じです。せつたくなので、しばらく動きのない自分のルピー口座から、寄付のためにお金を使うのもいいかなと思っております。(インド営業部ムンバイ 渡辺昌枝)

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

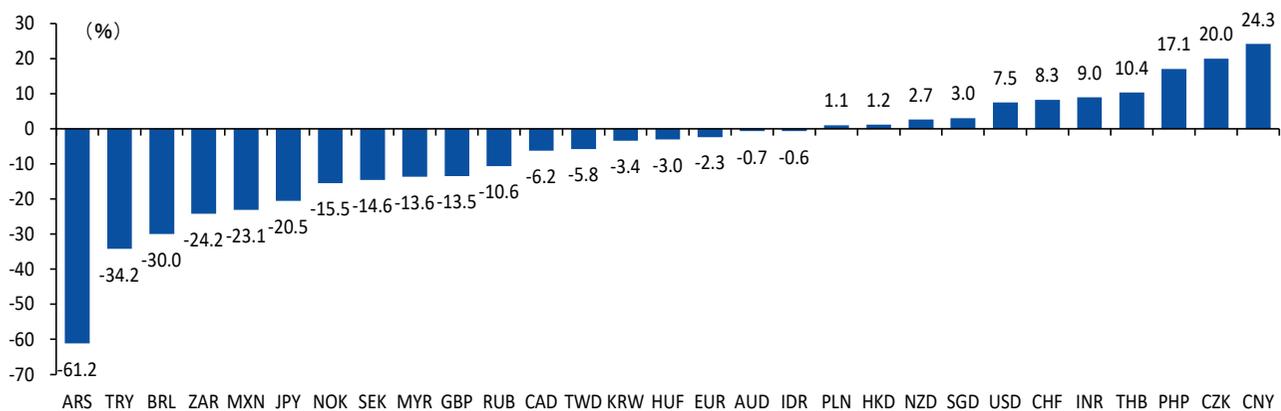
発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	製造業PMI	9月	-	56.8	52.0
10/9	政策金利	-	4.0%	4.0%	4.0%
10/12	鉱工業生産	8月	-7.8%	-8.0%	-10.8%
10/12	CPI	9月	6.90%	7.34%	6.69%
10/15	貿易収支	9月	\$3.0bio赤字	\$2.7bio赤字	\$6.7bio赤字

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2019年末	2020年10月末	騰落率	株式市場	2019年末	2020年10月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	28538.44	26501.6	-7.1%	-
日本	USD/JPY	108.61	104.66	-3.6%	日経平均株価	23656.62	22977.13	-2.9%	0.8%
ユーロ圏	EUR/USD	1.1213	1.1647	3.9%	ドイツDAX指数	13249.01	11556.48	-12.8%	-12.8%
英国	GBP/USD	1.3257	1.2947	-2.3%	ロンドンFTSE100指数	7542.44	5577.27	-26.1%	-24.3%
豪州	AUD/USD	0.7021	0.7028	0.1%	S&P/ASX200指数	6684.075	5927.58	-11.3%	-11.4%
カナダ	USD/CAD	1.299	1.3321	2.5%	S&P500総合指数	17063.43	15580.64	-8.7%	-11.0%
エマージングアジア									
中国	USD/CNY	6.9632	6.6915	-3.9%	上海総合	3050.124	3224.532	5.7%	10.0%
香港	USD/HKD	7.7914	7.7522	-0.5%	香港ハンセン	28189.75	24107.42	-14.5%	-14.0%
インド	USD/INR	71.38	74.11	3.8%	インドSENSEX30種	41253.74	39614.07	-4.0%	-7.5%
インドネシア	USD/IDR	13866	14625	5.5%	ジャカルタ総合	6299.539	5128.225	-18.6%	-22.8%
韓国	USD/KRW	1155.84	1134.76	-1.8%	韓国総合株価	2197.67	2267.15	3.2%	5.1%
マレーシア	USD/MYR	4.091	4.1558	1.6%	ブルサマレーシアKLCI	1588.76	1466.89	-7.7%	-9.1%
フィリピン	USD/PHP	50.655	48.405	-4.4%	フィリピン総合	7815.26	6324	-19.1%	-15.3%
シンガポール	USD/SGD	1.3459	1.3664	1.5%	シンガポールST	3222.83	2423.84	-24.8%	-25.9%
台湾	USD/TWD	29.991	28.583	-4.7%	台湾加権	11997.14	12546.34	4.6%	9.7%
タイ	USD/THB	29.705	31.16	4.9%	タイSET	1579.84	1194.95	-24.4%	-27.9%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2020年9月時点)



■ 実質GDP成長率

	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2019Q4	2020Q1	2020Q2	2020Q3	2018 2019	
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.9	1.5	2.6	2.4	-5.0	-31.4	33.1	3.0	2.2
日本*	2.8	1.6	0.2	-7.0	-2.3	-28.1		0.3	0.7
ユーロ圏	1.5	1.3	1.4	1.0	-3.3	-14.8	-4.3	1.9	1.3
英国	1.7	1.3	1.0	1.0	-2.1	-21.5		1.3	1.3
豪州	1.7	1.6	1.8	2.3	1.6	-6.3		2.8	1.9
カナダ*	1.2	3.2	1.1	0.6	-8.2	-38.7		2.0	1.7
エマーゼンジア									
中国	6.4	6.2	6.0	6.0	-6.8	3.2	4.9	6.7	6.1
香港	0.7	0.4	-2.8	-3.0	-9.1	-9.0	-3.4	2.8	-1.2
インド	5.7	5.2	4.4	4.1	3.1	-23.9		8.0	8.3
インドネシア	5.1	5.1	5.0	5.0	3.0	-5.3		5.2	5.0
韓国	1.8	2.1	2.0	2.3	1.4	-2.7	-1.3	2.9	2.0
マレーシア	4.5	4.8	4.4	3.6	0.7	-17.1		4.7	4.3
フィリピン	5.7	5.4	6.3	6.7	-0.7	-16.5		6.3	6.0
シンガポール	1.0	0.2	0.7	1.0	-0.3	-13.3	-7.0	3.5	0.7
台湾	1.8	2.6	3.0	3.3	2.2	-0.6	3.3	2.8	2.7
タイ	2.9	2.4	2.6	1.5	-2.0	-12.2		4.2	2.4

(注)インドの年間成長率は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	20/02	20/03	20/04	20/05	20/06	20/07	20/08	20/09	2018 2019	
	(%)								(%)	
先進国										
米国	3.5	4.4	14.7	13.3	11.1	10.2	8.4	7.9	3.9	3.7
日本	2.4	2.5	2.6	2.9	2.8	2.9	3.0	3.0	2.4	2.4
ユーロ圏	7.3	7.2	7.4	7.6	7.9	8.1	8.3	8.3	8.2	7.6
英国	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.3	4.5		4.1	3.8
豪州	5.1	5.2	6.4	7.1	7.4	7.5	6.8	6.9	5.3	5.2
カナダ	5.6	7.8	13.0	13.7	12.3	10.9	10.2	9.0	5.8	5.7
エマーゼンジア										
中国		3.7			3.8				3.8	3.6
香港	3.7	4.2	5.2	5.9	6.2	6.1	6.1	6.4	2.8	2.9
インド	5.0								5.2	5.2
インドネシア	3.3	3.8	3.8	4.5	4.3	4.2	3.2	3.9	3.8	3.8
マレーシア	3.3	3.9	5.0	5.3	4.9	4.7	4.7		3.3	3.3
フィリピン			17.7			10.0			5.3	5.1
シンガポール		2.4			2.8			3.6	2.1	2.3
台湾	3.7	3.8	4.1	4.2	4.0	3.9	3.8	3.8	3.7	3.7
タイ	1.1	1.0	2.2	1.9		2.2	1.9		1.1	1.0

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	20/02	20/03	20/04	20/05	20/06	20/07	20/08	20/09	20/10	2018 2019		
	(前年比%)										(前年比%)	
先進国												
米国	2.3	1.5	0.3	0.1	0.6	1.0	1.3	1.4			2.4	1.8
日本	0.4	0.4	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2				1.0	0.5
ユーロ圏	1.2	0.7	0.3	0.1	0.3	0.4	-0.2	-0.3	-0.3		1.8	1.2
英国	1.7	1.5	0.8	0.5	0.6	1.0	0.2	0.5			2.5	1.8
豪州			2.8		-0.3			0.7			1.9	1.6
カナダ	2.2	0.9	-0.2	-0.4	0.7	0.1	0.1	0.5			2.3	1.9
エマーゼンジア												
中国	5.2	4.3	3.3	2.4	2.5	2.7	2.4	1.7			2.1	2.9
香港	2.2	2.3	1.9	1.5	0.7	-2.3	-0.4	-2.2			2.4	2.9
インド	6.6	5.8	7.2	6.3	6.2	6.7	6.7	7.3			4.0	3.7
インドネシア	3.0	3.0	2.7	2.2	2.0	1.5	1.3	1.4			3.2	2.8
韓国	1.1	1.0	0.1	-0.3	0.0	0.3	0.7	1.0			1.5	0.4
マレーシア	1.3	-0.2	-2.9	-2.9	-1.9	-1.3	-1.4	-1.4			1.0	0.7
フィリピン	2.6	2.5	2.2	2.1	2.5	2.7	2.4	2.3			5.2	2.5
シンガポール	0.3	0.0	-0.7	-0.8	-0.5	-0.4	-0.4				0.4	0.6
台湾	-0.2	0.0	-1.0	-1.2	-0.8	-0.5	-0.3	-0.6			1.4	0.6
タイ	0.7	-0.5	-3.0	-3.4	-1.6	-1.0	-0.5	-0.7			1.1	0.7

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2018Q4	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2019Q4	2020Q1	2020Q2	2018 2019	
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.2	-2.3	-2.4	-2.4	-2.2	-2.2	-2.6	-2.2	-2.2
日本	3.5	3.6	3.5	3.4	3.6	3.6	3.1	3.5	
ユーロ圏	2.9	2.7	2.2	2.2	2.3	2.0	2.2	2.9	2.3
英国	-3.7	-4.5	-4.7	-4.9	-4.3	-3.6	-2.8	-3.9	
豪州	-2.1	-1.7	-0.8	0.1	0.6	1.2	1.8	-2.1	
カナダ	-2.5	-2.6	-2.3	-2.4	-2.0	-1.9	-1.9	-2.5	-2.0
エマーゼンジア									
中国	0.2	0.7	0.9	1.1	1.0	0.6	1.1	0.2	
香港	3.7	4.3	5.0	5.9	6.1	4.9	6.0	4.3	
インド	-2.4	-2.1	-2.1	-1.6	-1.0	-0.8	0.4	-2.4	-1.0
インドネシア	-3.1	-3.0	-3.0	-2.9	-2.7	-2.5	-2.1	-2.9	-2.7
韓国	4.6	4.7	4.3	3.8	3.7	3.8	3.6	4.5	
マレーシア	2.3	2.4	3.1	3.6	3.3	2.8	2.5	2.3	
フィリピン	-2.3	-2.6	-1.5	-1.0	-0.1	0.3	1.5	-2.3	
シンガポール	17.2	16.9	17.3	17.0	17.0	16.7	16.1	17.2	17.0
台湾	11.6	11.0	10.9	11.3	10.6	10.6	11.2	11.6	10.6
タイ	5.6	5.1	5.1	6.2	6.8	6.2	5.7	5.6	

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向		
			日付	水準 (%)	日付	変更幅	日付	決定事項	
先進国									
米国	FFレート誘導目標	0.00-0.25	緩和: 2019/7/31	2.25-2.50	2020/3/15	-100bp	2020/9/16	現状維持	
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10bp	2020/9/17	現状維持	
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5bp	2020/9/10	現状維持	
英国	バンクレート	0.10	緩和: 2020/3/11	0.75	2020/3/19	-15bp	2020/9/17	現状維持	
豪州	キャッシュレート	0.25	緩和: 2011/11/1	4.75	2020/3/19	-25bp	2020/10/6	現状維持	
カナダ	翌日物金利	0.25	緩和: 2020/3/4	1.75	2020/3/27	-50bp	2020/9/9	現状維持	
エマージングアジア									
中国	1年物貸出基準金利(LPR)	3.85	緩和: 2012/6/8	6.31	2020/4/20	-20bp	2020/10/20	現状維持	
インド	翌日物レポ金利	4.00	緩和: 2019/2/7	6.50	2020/5/22	-40bp	2020/10/9	現状維持	
インドネシア	7日物リバースレポレート	4.00	緩和: 2019/7/18	6.00	2020/7/16	-25bp	2020/10/13	現状維持	
韓国	7日物レポ金利	0.50	緩和: 2019/7/18	1.75	2020/5/28	-25bp	2020/10/14	現状維持	
マレーシア	翌日物金利	1.75	緩和: 2019/5/7	3.25	2020/7/7	-25bp	2020/9/10	現状維持	
フィリピン	翌日物金利	2.25	緩和: 2019/5/9	4.75	2020/6/25	-50bp	2020/10/1	現状維持	
タイ	翌日物レポ金利	0.50	緩和: 2019/8/7	1.75	2020/5/20	-25bp	2020/9/23	現状維持	
ベトナム	リファイナンス金利	4.00	緩和: 2012/3/12	15.00	2020/10/1	-50bp	2020/10/1	-50bp	

(注)インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBILレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行